Liarsoftの嘘つきエンターティメントマガジン

USO 月刊うそ。

TOPIX

- 城女入学式、学園船からの転入生が！？
- 「ユリトピア」早くも今年の流行語大賞有力か
- 5月病対策！屋上の百合霊さんでさらに鬱に！
- 新連載「牧師と学ぶ、正しい土下座の使い方」
- 今年の春は百合前線花粉にご注意！？ 日本列島で発症者続出！
- 屋上のYRR総選挙開始！
- 最新作「床下の恋人たち」借りパク被害続出
- ライアー社会見学を実施中？

TOPIXネタ投稿募集中～ ポイントもつくよ!!



Volume. 41
Quarterly
400ニコル（税込）

舞台は戦国、愛と勇気の下克上絵巻（誇張アリ）

平グモちゃん ～戦国下克上物語～

チャキチャキの茶器っ娘勢ぞろい！ ノブリンもいるよ!!

cover model=因幡うさぎ～ズ&結奈、サチ、恵、羽美、沙紗、音七 photo=忌野Lem

INDEX

SEASONLY LIARMARU

今号の「ＳＥＶＥＮ－ＢＲＩＤＧＥ」「Ｆｏｒｅｓｔ」
「絶対地球防衛機メガラフター」「読者参加企画」はお休みいたします。

COVERGIRL

いなば
因幡うさぎーず



春だね！／本が出る頃は多分もう梅ｙ…／（バキィ）馬鹿ぁ！心にスプリングがハズカムな限り春なの！／…季刊を銘打つ上で「春号」を称したいのは分かったよ／分かってくれたか～／しかし痛かった（ガブゥ）／ひぎぃ噛むとか痛いし！／春なんだからそのくらい我慢！／そ、そうだね春だから我慢するよ！


いざ、


下克上！

時は戦国。商業都市・堺。

前妻に逃げられてやる気をなくした行商人・久ちゃんは日々を寝て過ごしていた。
行く末を心配する兄貴分の道さんと弟の長頼は、一計を案じ、名士の紹鴎さんの娘との

二人の顔を立ててお見合いの場へ臨む久ちゃん。
しかしそこにいた平グモちゃんに一目惚れし、晴れて結婚までこぎ着ける。

新しい生活が始まったものの、やる気を無くしていた期間が原因で
商人としての信用はなくなっており、仕事が見つからない。

兄の困窮を見かねた長頼は自分が臣従している三好長慶への仕官を勧める。

長慶に気に入られて侍になった久ちゃんは、

果たして戦国時代を生きていけるのであろうか！？





FC会員だけの先行情報 **久秀が２人！？**

気弱そうな普段の久秀とは全く異なる表情と、顔の傷。
この久秀の正体はゲーム中で＊＊＊すると発生する
イベントで変貌を遂げた姿。ヒントは実際の史実で
久秀が取ったと言われる行動にあり？
一体、この久秀が平グモちゃん以下ヒロイン達に
どのように接していくのか。大注目！

デモムービー／体験版近日公開予定！！


お見合いを設定する。
戦国下克上物語
企画・シナリオ 岩清水新一 原画 Lem
歌唱 Rita 音楽 HIR
2012年7月27日発売予定
日本語版WINDOWSXP以降対応DVD−ROM
フルカラー設定冊子＋サントラCD付き豪華限定版 9,800円＋税
お求めやすい通常版 7,800円＋税



ラブネゴとPPとLLEに探検隊も加わった鬼籍・もとい

ろりVS巨乳

勇気「ども、ラブネゴのヒロイン、岡田勇気です。このページはろり陣営、きょにう陣営、そしてスレンダー陣営に別れて、それぞれの陣営が持つ素晴らしい部分をテーマに沿ってディスカッションしていく、業の深いコーナーです。ろり陣営は、あたし、岡田勇気！」
モコ「きょにう陣営はピンクパンツァーのモコ」
ノブ「スレンダーは水スペの川野ロノブでお送りします！　じゃ、さっそくはじめるわよ！　今回のテーマは『お風呂』！」

■ろり陣営お便り紹介

勇気「まず一番手は、ろり陣営からー」
将太郎「そして解説は世界の子煩悩、高将太郎だ。幼女バンザイ」
勇気「たまには他の人にして欲しいなぁ……」

「“入浴→あったかい→気持ちいい→おもらし”という電波をS太郎さん（仮名）から受信しました！」（PN：カナエー号さん）

勇気「って、しょっぱなからこんなか。カナエー号さんって、比較的まともなヒトだと思ってたのに……」
将太郎「なにを言う。まともだからこその電波受信だ。春先だしな」
勇気「黙れ発信源！」
将太郎「ふっ。残念だがこれは私の電波ではない。私の電波はもっとハードコア。さらに先を行く。おもらしの向こう側へとな！　具体的には――」
勇気「言わないでいい！　キモい！　ホントにキモい！」
将太郎「そうか？　ではようじょ入浴済みの残り湯は価値が高い、というだけに留めておこう。電波受信は修羅の道。もっと精進するように」
勇気「しなくていいよ……」

「一緒にお風呂に入って水鉄砲やったりタオルに石鹸を包んでブーってやったり背中の流しっこしたり。ちっちゃい子とお風呂に入る時にはいかがわしい事など考える必要は無いんですよ、その一挙手一投足が宝なのですから」
（PN：俊太さん）

将太郎「その通り。俊太はいいこと言うな。私も常に自然体でようじょに接しているのだが、なぜか世間の風当たりが冷たく……。寒い時代だとは思わんかね」
勇気「自然体がいかがわしいんだからしょうがないでしょ」

「ろりは、無邪気さが罪になっちゃいますね。男性が女の子に対して目のやり場に困るのは何歳からですか？」（PN：みぐらさん）

将太郎「これは設問が間違ってる。正しくは“何歳までですか”だ」
勇気「はぁ……」
将太郎「そして正解は“お赤飯まで”だ。ここはテストに出るので覚えておくように」
勇気「なんでこの人、逮捕されないんだろう……」

「シャンプーハットというアイテムは、まさにろりっ子の為にある物だと思うのです。
洗ってあげるのも楽しいと思いますが、自分で一生懸命洗ってるのを見守るというのもなかなか乙なものだと思うのです」
（PN：かいむなつきさん）

勇気「そうだねー。ちょっと暖かい気分になるよね」
将太郎「ところで“おとうさんもはだかんぼう”のコーナーは、復活しないのかね。素晴らしいコーナーだったのだが……。もちろん、見ている私もテレビの前ではだかんぼうだぞ」
勇気「あんたみたいのがいるから、なくなったんでしょうが！」

というわけで、ろり陣営公認絵師のみゅらっち先生に、イラストを描いていただきましたー。

勇気「シャンプーハットの使い方間違ってるよ！」
将太郎「だがこれはこれで……、ナイスだ！」

■スレンダー陣営お便り紹介

ノブ「はいはい。それじゃスレンダー陣営のお便りを紹介するよー」
ヒロ「……」
ノブ「あ、今回もゲストいないんだ」
ヒロ「GWだからね……、大学に

vsスレンダー

千年戦争

残ってるのは僕らだけなんだよ……」
ノブ「なんだ、みんな根性ないなー」
ヒロ「ソウデスネ」

「体にフィットしたタオル、うっすらと透けて見える身体、セクシーです」　（ＰＮ：竜宮さん）

ノブ「竜宮さんの言うことわかるなぁ。余分な肉がほとんどついてない肢体だからこその魅力ってあるよね。ヒロの部屋に転がってた写真集も、だいたいそんな女の子ばっかだし」
ヒロ「な、なぜそれを！　ちゃんとシークレットな場所に隠していたはずなのにっ」
ノブ「うん。探検したからね」
ヒロ「それは探検じゃなくて家捜しだ！」

「スレンダーさんは自分の体型を気にする人が多そうなので、スレンダー専用温泉を作りたいです。温泉へと続く入口をかなり狭く作れば、自動的にスレンダーさんしかたどり着けない楽園に！」
（ＰＮ：カナエー号さん）

ノブ「いいねー。いっそそういう秘境作ってくれないかなぁ。“緊急特報！　銭湯の奥地にスレンダーの楽園は存在した！　呪われた番台！　料金４１０円（都内）！　温泉に潜む割れた腹筋の謎とは！”みたいな」
ヒロ「秘境って、作るもんじゃないと思うけど……」

「スレンダー陣営。サウナ風呂でついつい周りとサイズを比べて自分が一番小さい事に気付いて凹んでたりするといいですね」
（ＰＮ：猫井篤さん）

ノブ「そして発見されたスレンダー部族は、探検隊員のサイズと比べて凹んだりしてるってわけよ。うん、数字採れると思うなぁ、これ」
ヒロ「と、どうかな。それ放送する場合、画面が不自然な湯気ばっかりになっちゃうような気がする」
ノブ「そこはほら、ＤＶＤ版でちゃんと取れるから」

「スレンダーならではの、健康的なスタイルで入浴後に腰に手を当てて珈琲牛乳を飲んで頂きたいです！」（ＰＮ：ふ〜ちゃんさん）

ノブ「秘宝はこれね！　“衝撃の発見！　キャップに昭和と刻印された謎の牛乳！”とか煽りを入れれば、みんな食いつくって！」
ヒロ「それ賞味期限切れてるし！　確かに風呂上がりの牛乳はおいしいけど、お宝が牛乳ってのはどうかなぁ」
ノブ「でもほら、ヒロが持ってた本にも、女の子が不自然に白牛乳こぼしてる写真とか載ってたじゃん。疑似的なヤツでしょ、あれ」
ヒロ「その話はもういいって！」

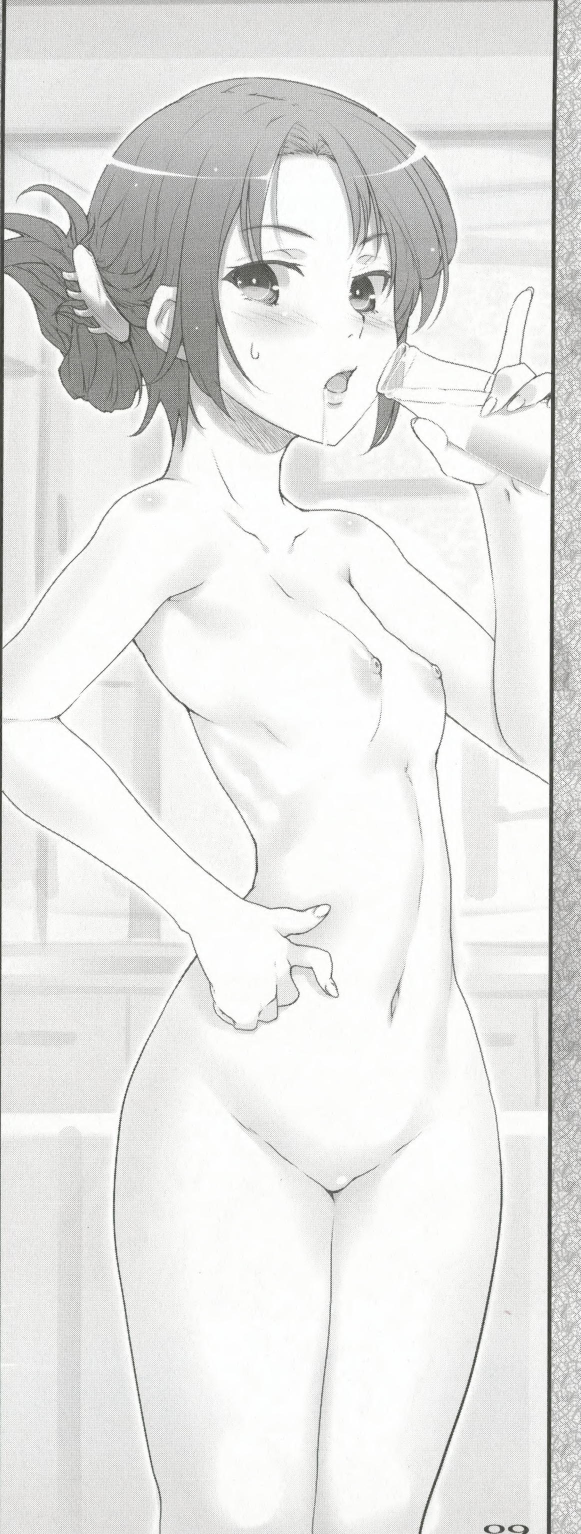
「スレンダーな娘との入浴の楽しさは、普段あまり露出してくれないその肢体をじっくりと見れる点にある。勿論それだけではなく、自信の肉体にコンプレックスを抱いている事が多いので、その恥らう様と朱く火照った躰を見せられたらもう……」
（ＰＮ：トリスメギストスさん）

ノブ「じゃあ秘宝はすぐ近くにあったのだ、的なオチで、この投稿っぽいのを前面に出すってのは？」
ヒロ「青い鳥っぽくていいかもしれないけど、放送できるのかな……」

スレンダー陣営公認絵師の東森姫先生に、イラストを描いていただきましたー。
東森姫先生のコメントです。

「細っこい人の肋骨の影とか、ちょっと体をひねったときに出来る筋肉によりうっすら落ちる影とかが大好きです！
周りにあんまり同意してくれる人がいなくて寂しいです（；ω；）」

ヒロ（いや、同意しますよ、先生！　今はノブがいるんで、口に出しては言えませんが！　大好きです！）
ノブ「その顔は同意してる顔ね」
ヒロ「はっ！」





■きょにう陣営おたより紹介

モコ「ではトリは我がきょにう陣営ですね！　今回の解説は戦うプロレタリアート、赤い狂戦死のカルチェさんですー」

カルチェ「あ、はい。えーっと、巨乳について語るんでしたよね……。じゃあ行きます！　我々は、ブルジョアジーによる胸囲の独占に断固反対する！　巨乳粉砕！　貧乳有理！」

モコ「ちょ、カルチェさん！　逆！　逆！　ここはきょにうを賛美するとこです！」

カルチェ「え、そ、そうなの？　えーっとじゃあ革命戦争は巨乳の戦争である。おっぱい革命バンザイ！　反革命の貧乳主義者どもを総括せよ！　って、こんな感じでどう？」

モコ「あー、なんかダメなヒト呼んじゃったかも……」

「お湯に入るとオッパイが浮くから楽、ですと？　却下します！　真の幸せは風呂蓋の上に乗せる事にあります。そしてパズルなど解きながら長湯」　（P.N：さの字さん）

カルチェ「なるほど！　つまり重力の軛から解き放たれるということですね！　なんとなく言葉の響きがいい感じなので、あなたをおっぱい革命戦士に認定します！　やったね！」

「大きさを保ちつつも一切垂れず、水を弾くその弾力、滴る水によってきらめく乳。飛びつきたくなりますな。また一緒に湯船に浸かって、湯に浮く乳を後ろから見る壮観さ、それを鷲掴む心地よさといい、見ても触っても楽しい」（P.N：トリスメギストスさん）

カルチェ「踊り子さんに触るのは、反革命行為です！　なのでこいつはきょにう改造キャンプ送り！！」

◎今週の「浮力」コーナー

モコ「さて。今回のテーマでは、こんな内容の投稿が圧倒的多数を占めました！　その一部を紹介しますねー」

「人間の身体は水に浮くようになっています。“お風呂”　“浮く”　“巨乳”　この三つが意味するものは水風船のような頭を持つ、訓練された紳士なら分かるはず……」
（P.N：くたばりかけの梟さん）

「湯船で浮くんだと思うと大変うらやまし……いややっぱりけしからんです」　（P.N：みぐらさん）

「こと「入浴」と言うテーマなら巨乳が最強でしょう。何故か妙に乳白色なお湯に浮かぶ上乳を愛でるも良し霧で霞んだシルエットにときめくもよし。出来れば温泉できょにうお姉さんとしっぽりしたいものです」
（P.N：ささめけさん）

「巨乳さん、入浴、このワードで一番に頭へ浮かんできたのはお湯にぷかぷかと浮かぶお胸さんでした。谷間にお猪口が置いてあったりしてお酌してくれたりとか…。今すごくえろげ脳です」　（P.N：しのさん）

「タオルで体を隠そうにも巨乳のせいでタオルが浮いて下の方を隠せなかったり！　乳の表面を汗がつるりと垂れたり！　湯に巨乳が浮いたり！　良いと思います！」　（P.N：竜宮さん）

モコ「というわけで、おっぱい浮くぞ特集でしたー。わーぱちぱち」

カルチェ「おお。すごいすごい。まさに連帯を求めて孤立を恐れず、ですね！」

モコ「そ、そうなのか、なぁ」

カルチェ「そうですそうです。我々はあしたのジョーなのです。そしてこれこそ、みんなの革命的精神がひとつになった結果ですよ。戦争の巨大な力のもっとも深い根元は、おっぱいの中に存在する、です。確かに浮くのは巨乳だけに許された特権ですからね。誇るべき事――、あ、あれ？　てことは巨乳は特権階級？　倒すべき敵？　自己批判しなくちゃいけないのかしら……」

モコ「ああ、カルチェさんが革命的思索の迷宮に！」

　きょにう陣営公認絵師のせんばた楼先生に、イラストを描いていただきましたー。
　せんばた楼先生のコメントです。

「今回は圧倒的多数のリクエストを頂いた『湯船で浮きおっぱい』をお送りします。
　皆様の熱い想いに僅かでもお応え出来たのであれば嬉しいのですが」

カルチェ「はっ！　私が間違っていました、先生！　やっぱり浮きおっぱいこそ真の革命的存在！　巨乳勝利の日までガンバロー」

■お便り募集！

早苗「どもっ、ＬＬＥのヒ」弥生「お詫びです。前回、トリスメギストスさんの名前、間違って“トリスメギストリス”と表記していました。本当にごめんなさい」早苗「あ、あれ？　自己紹介を」弥生「さて時間がないからさっさと行くわよ」早苗「また自己紹介出来ない……」若葉「次のテーマは“食事”です」早苗「え、もう終わり！？」若葉「また次回お会いしましょう」弥生「さようならー」早苗「ちょ、ちょっとー」


誰も得をしない近況マンガ
鳥さんといっしょ10
♪
自然復活を願うサンダンスという儀式があってな
まだ小さかった私は見よう見まねで踊ってあそんだりしてたかな…
ほうほう。
ポワワーン
もやもや～～
ああ、鳥さんも昔はこんな笑い方が出来る子だったに違いないのに…
ホロリ
ムッ
今はどうだと言うのかね？
それに実際はこういうペイントをしてだな…
もっと神聖で過酷な儀式なのだ！
ゴゴゴ
イメージ画
ビクッ
ヒッ


春、それは新しい季の訪れを告げる季節……
だがその変節は瑞兆ばかりとは限らない。
蒼天スチームパンカーズ!!
あーもうイヤ！かゆいかゆい!!
毛がモコモコしてムズムズするよー!!
もうシェラ！
ここで毛繕いは厳禁だよ！
やだー！ウルメンシュは私が整備するの！
ギニャー
ヘタレヴィには任せられないもん！
あとで掃除するのもボクなんだけど…
いや機関に毛が入ったら整備不良になっちゃうしね？
ドン
あなたたちはまだ全然マシよ
コー
ホー
私なんかネコ毛と花粉のアレルギーでこんな有様だもの
わー、コニーねーちゃん
ううっ……子供たちはとっても可愛いのに
おかげで一時もこの重装備を外せないわ…
わ
わ
わ
も
わ
ドドドドド
あの姿でも慕われるのは流石だけど
できれば他所でやって欲しいな
マスクの下は泣き笑いだね
やめて
ギャー

■紅殻町博物誌外伝
――紅殻町よりの手紙――

『恭敬。　宮里智久様。

二百十日も過ぎ、暦の上では早秋と称されるみぎり、貴方様は恙無くお過ごしでしょうか。

秋の訪れの早いこの町では、空の色もどこかしら澄んで、日暮れも早くなったように思われます。

……などて季節の移り変わりを景色に眺め一筆差し上げますような風雅、自分の如き若輩者には僭越かと存じます。

それでも貴方様にお知らせしたい事のあり、こうして見苦しい文を連ねております。

当地の紅殻観音堂のことです。貴方様も調査にいらしたと聞き及んでおりますが、ご記憶でしょうか。

その境内に一本の桜が生い立っておりまして、こちらは老木であるせいか、近年では春を迎えても花を着けない年もあるようです。

（品種名はエドヒガンだそうです。かの久保の桜と同じ品種であるとか）

先だっての週末、夏の終わりを告げるような多雨があり、その明くる日、晴れた朝のこと。

件の桜が、忽然として花を咲かせました。それも一夜にして、雨にも流されず、満開の姿で。

――狂い咲き、というのでしょうか。

信心深い祖父は、なにか変事の前触れだ、などと宣いまして、驚く、というより不安じてさえいるようです。

事実わたくしも、その下に立ってみますと、なにかしら胸騒ぎのような、物凄まじい心地に囚われてしまう有り様で。

ただ、自分が覚えたのは、凶事の先触れ、という不安よりも。

過ぐるこの夏、貴方様がこの紅殻町へ不思議に訪れて下さいましたように、また、こちらにご来臨があるのではないかと、そのしるしのように思えてしまったのです。

お許し下さいませ。

下らぬ女子の勝手な思いこみです。

このような繰り言を延べてしまい、貴方様を煩わせてしまう不始末になるかとも恐れます。ご学業もおありでしょう。

ただそれでも――

夏の日々、貴方様とお会いできた事、色々のお話を伺えた事、当地の資料館に御来訪下さった事は、私にとって得難き経験であり、もし機会があればまた、と願って止みません。

もし当地にいらっしゃるような折りがありましたら、どうか資料館にお立ち寄り下さいませ。

乱筆乱文を書き連ねてしまいました事、重ねてお詫び申し上げます。ご寛恕いただければ幸いです。

東京ではまだ残暑厳しき気候であるようですが、どうかご自愛下さいますよう――

再拝

宮里智久様。

宵待白子　　御机下に。

追伸。

文中にも延べました老桜の花びら、散ったものを一弁挟みます。まさしく薄桜色が麗しく』

◆　◆　◆

……白子は、そこまで書き連ねて、目上である青年への手紙の中に「追伸」の文を加える事、失礼かと始めから書き直そうとして、新たに便箋を取りだしたものの、祖父譲りの万年筆はそれ以上は滑ってはくれず。書き飽いた、というのではない。

ところは山形、紅殻町、蛍沼、観音堂。狂い咲いた桜を眺めつつ、書いてみた青年への手紙。

いったん見直してみると、青年の来訪をねだるような文章、浅ましく押しつけがましく取られそうで、そればかりか言葉遣いが間違っているようで、なのにどう直していいのか判らなくなってしまう始末。

散り舞った桜の花びらを挟んでみるのだって、始めは良き思いつきに感じられたのに、改めてみると気障で鼻持ちならず厭らしい。

だから結局白子は。書きかけの手紙、制服の内側に押しこんで。花びらも、手の中からふう、と境内の宙に吹き散らして。

多分この手紙は少女の文箱に仕舞い込まれ、他諸々の「出されなかった手紙」の仲間入りをするのだろう。白子はそんな風にして、既に何通かの青年への手紙を封じこめてしまっていたから。己の想いとともに。

◆　◆　◆

けれどその夜。ところを遠く隔てて東京の、宮里青年は、妖しい夢の訪れを見たという。

それは、まだ茹だるような残暑にしては季違いな、凄い、凄まじい、凄艶なまでに咲いている夜桜の景色であり、その桜が、精として遣わしたような、舞い散る花びらの中に佇む少女の姿であり。

これなるは狂い咲き、あなたも共に、物狂おしくあれ、と誘うように、華奢な肢体から、まさに散る花の如く衣装が滑り落ちてその精妙な肌の色を露わにしていく、差し招く――

堪えきれず、強く抱擁しようとしてそこで目覚めた、寝汗と動悸の夥しさよ。

そして青年の枕元に、どこから舞いこんできたものやら、晩夏の季節というのに匂うように瑞々しい、桜の花の一弁が。

―――それはきっと、紅殻町よりの手紙。

――少女からの、出されなかった、手紙。





魔都拳侠傳 マスクド上海

■マスクドシャンハイ未公開ファイル

このマスクドシャンハイ未公開ファイルは、俺が魔都上海で遭遇した事件の中で、本編では様々な事情で取り上げられなかったものについて、詳しく紹介していこうというコーナーだ。
さて、今回取り上げるのは“お天気キャスター失踪事件”だ。
言うまでもないが、この事件、上海の公式な記録には一切残っていない。その辺は未公開ファイルに載っている他の事件と同じだが、この事件に関してはその理由が“大した事件じゃなかったから”であって、当事者以外にとっては、わざわざファイルに残さなくてもいいような、ちっぽけな出来事である。しかし枯れ木も山の賑わいという言葉もあるし、上海では他の大きな事件に隠れて、こんなことも起きていたんだなぁと、追憶に浸ったりするのにはちょうどいいものかもしれん。暇のある奴はざっと目を通してみてくれ。

▼事件概要
「アイリーン・ワトスン　お天気キャスターに抜擢される」

この事件は簡単に言うと『お天気キャスターに採用されたアイリーンが、炎上しかけたところを、マスクドシャンハイであるこの俺が助けた』というものである。複雑に言ってもそんなに変わらないので、特にまとめる必要もないだろう。ちなみに原因となった“お天気仙人”の外見は左の写真の通り。とにかく以下に関係者の証言を羅列しておくので、なんとなく事件の流れを掴んで欲しい。

○関係者証言その１　共同租界自由通信局　プロデューサーT野氏

問「４月頭にアイリーンを番組キャスターに採用したと聞いたが」
答「はい。天気予報のコーナーを担当してもらいました」
問「キャスター経験のない彼女を採用した理由はなにか」
答「彼女のもつおっぱい、もとい魅力が、我が局がこの上海で生き残っていくのに必要だと考えたからです」
※３０年代の上海では１００局以上のラジオ局が存在していた。共同租界自由通信局はそのうちのひとつ。しかし日中どちらにも偏らないスタンスであるが故に、経営は常に苦しかった。
問「しかし半年たたずに契約を解除を申し出ている」
答「事実です」
問「その理由はなにか」
答「ラジオでは彼女の巨乳っぷりが聴取者伝わらなかったこと。もう一つは、彼女の予報がことごとく外れたからです」
問「契約解除の話をした時の、彼女の反応は」
答「もうすこし時間が欲しいと言われました。必ず予報の通り雨が降るよう、なんとかするからと」
問「なんとかなったのか？」
答「なりませんでした」

○関係者証言その２　古物商　自称ある時は片目の中国人コントン

問「イギリス人女性に売ったものはなにか」
答「んー、法具だよ。雨乞いに使うヤツで、夏王朝時代よりも前のもの、ってことになってる優れもの。これがなんとたったの１０００ドル！　ま、今時こんなの使うヤツいないけどねー」
問「それはなぜか」
答「昔のだから、代償がでかいんだよね。孔明が饅頭考えつく前なら普通に使ってたけど、このご時世だとねー。張献忠くらい気合いの入ったヤツが最近いなくてさ。つまんない世の中になったよな、ホント。そりゃお天気仙……、じゃなかった彼女もぐれちゃうよね」

○関係者証言その3　自称ジャーナリスト　アイリーン・ワトスン

問「迷惑かけんな」

答「しょうがないでしょ、切羽詰まってたんだから！　つか、あんたに迷惑かけてないでしょうが！」

問「うっせーな！　結局どういうことなんだよ」

答「それがさー、藁にもすがる思いで魔法の道具を買ったのよ。そしたら、そっから女の人が出てくるじゃない！　しかも雨降らせるの余裕とか言うしさ。そりゃ頼むでしょ、雨降らせてくれって」

問「その結果がアレ（右側参照）か」

答「そうそう。いやー、まさか上海で未開人の群れに襲われるとはねー。あ、でも聞いてよ、不幸中の幸いっていうかさ、あわやってところで、あのマスクドシャンハイ様が助けに来てくれたの！　マスクドシャンハイ様はもちろんだけど、助けられるあたしも凄いと思わない？　映画だったら完全にヒロイン的なポジションでしょ、このタイミングって。やっぱあれよね、マスクドシャンハイ様とあたしは、運命の赤い糸で結ばれてるのよ！　うん、絶対にそう。この間だって（以下、うざいだけなので削除）」

問「で、どう思った？」

答「やっぱあたしがやるべきはキャスターじゃなくて、新聞記者てことよね。つーわけで、この経験を元に、マスクドシャンハイ様超素敵特集記事を書いてるところ。一面トップ間違いなしだから、明日の上海トリビューン、絶対買いなさいよね！」

※追記：アイリーンの書いたマスクドシャンハイ様超素敵記事は編集部のゴミ箱に直行した。

▼今回登場の仙人

○仙人名「お天気仙人」／推定仙人パワー：１７７万パワー／特殊能力：自分の気分次第で天気を操る事が出来る（実際の使用には、正しい儀式と生け贄が必要になります）。※カエルは降らせません。※アメフラシとは関係有りません。（注：いただいた能力を多少改変しています）

※今回登場の仙人は、ＰＮ：ふ～ちゃんさんからいただきました。ふ～ちゃんさんには５ｐ差し上げます。また「事件の傾向」では「バカ」が一番多かったです。投稿してくださった方には３ｐ差し上げます。ありがとうございましたー。

■投稿募集

　このコーナーでは皆さんから投稿をお待ちしております。

○あなたの考えた仙人を募集！

　あなたの考えた仙人を募集します。葉書もしくはメールに「仙人の名前」「特殊能力」「推定仙人パワー」を、外見と一緒に書いてお送りください。ちなみに正義仙人の仙人パワーは１００万弱。マスクドシャンハイは人間から仙人に改造された戦時急造仙人なので、若干低めの８３万仙人パワーとなっています。

　投稿された仙人の中から１人を選び、未公開ファイルに登場させていただきます。採用された仙人は磁油２先生にイラスト化される予定です。

【記入例】

仙人名「電波仙人」／特殊能力：春先に出現。レティクル星からの電波で人間を操る。／推定仙人パワー：５０万仙人パワー。

○事件のジャンルも募集中！

　同時に皆さんから事件のジャンルも募集しています。未公開ファイルのうち「燃え」「バカ」「エロ」の３ジャンルから見たいものをひとつと、もしあれば、他に出て欲しいキャラクターや見せ場などを一緒に書いてください。無い場合はジャンルだけでも構いません。投稿されたジャンルのうち、一番多かったものを反映した事件の紹介を行う予定です。

【記入例】

事件の傾向：燃え／出して欲しいキャラ：チハ坊／その他：バンジャーイ！



漆黒のシャルノス
『或る書斎の記憶』

欧州、いや、世界的名探偵、シャーロック・ホームズ。
カダス北央帝国から《知り得るもの》の大称号——ことによれば件の《十碩学》すら上回るとさえ言われる唯一の称号を授けられた諮問探偵である彼の活動は多岐に渡る。ドクター・ワトスンの手による彼の事件記録とでも言うべき小説では主に恐るべき殺人事件の数々を解決する彼の超人的手腕が描かれているが、それらの他にも、英国はおろか欧州全土に関わる過分に政治的もしくは陰謀的な大事件を幾つも手掛けているのだが、多くの市民の与り知らぬところである。
メアリもそんな一般的ロンドン市民の一人だった。
そもそもメアリは“偽物”にしか会ったことがなかった。暗黒の世界をひた走ったあの数ヶ月の出来事以降、困り事がある訳でも特にはなかったのでベイカー街２２１Ｂを訪れる必要はなかったし、そういう機会を求めることもなかった。
それでもメアリ・クラリッサ・クリスティが件の名探偵と会うことになったのは、なんと、シャーリィの紹介故だった。
「ミスタ・ホームズは、あなたに興味をお持ちとのことよ」
「え」
まさか。まさか！
シャーリィから男性の紹介をされようとは、夢にも思ったことがなかった。以前から「あのひとなんてどうかしら」とシャーリィが冗談めかして午後のお茶の時間に碩学院の年若く見目よい紳士の卵の名を口にすることはあったけれど、あなたに興味を持っている男性がいるから会ってはどうか、と具体的に言われることなんて。
正直なところ、メアリが同年代の若い紳士と会ったり話したりする機会はあまりなくて（昔馴染みのザック・マーレイ氏の言動は紳士とは言いにくいのでメアリとしては無意識的に除外している）、もう、素敵な出会いなんて小説じみたロマンスを「もしも自分だったら」なんて想像したりすることも最近はなくて、アーシェとミスタ・ハワードの睦まじい様子を見たり聞いたりして微笑んだり、そもそもシャーリィは碩学院内外の男子や紳士から人気が高いと噂に聞くのにこうも自分たちとべったりで良いのかしらんと仄かに心配していたくらいであったというのに——
「あなたさえよければご紹介したいと思うの。どうかしら」
「え、あ、ええ、そ、そう、ね」
どう答えたものか考えながら曖昧に「そうね」と頷いて。
あれよという間に、翌日の夜、フランス料理専門のレストランで件の名探偵氏と会うことになり、ひどく緊張しながらその場になんとか赴いて、これがジェイムズやザックであるならこんな緊張なんてしないのにと内心で溜息を何度も吐きながら、いざシャーリィと共にテーブルへ向かうと、そこには。ひとりではなく。ふたりいた。
「やあこれは、初めまして、お嬢さん。僕はジョン・ワトスン。医師をしている」ひとりめ。
「初めまして」ふたりめ。
人の良さそうな口髭の紳士と、痩身の紳士。
この痩身の、鋭い瞳の紳士が件の名探偵なのだわとメアリは直感として理解していた。具体的には、顔を、瞳を目にした瞬間に、どういう理由かジェイムズの顔が浮かぶという直感を得ていた。
そういえば、あの黒い彼は以前、シャーロック・ホームズ氏のことを嫌うような言葉を述べていたような気がする。
「きみがそうか」
名探偵は静かに述べる。
「ミス・クラリス。私がホームズだ」
その呼び方——
ああ、似ている、と、どうしても思ってしまう。
碩学院数学科第一教授。
そういえば、教授の名前は何といったろうか？

◆　　◆　　◆

——それから暫く。
——現在、今日に至るまで。

碩学院の最終学年（研究室入りを果たしていて研究部に進学すれば別ではあるけれど）となった今春の少し前から、メアリ・クラリッサはかの名探偵の手伝い、助手の真似事のようなことをしているが故に、ただの市民であれば与り知らぬままであったろうことを知ってしまったのだった。名探偵がどれほどの事件に関わり、時に華やかに、時に人知れず解決していたのか、ということを。
新婚のためかホームズ氏の活動からは些か距離を置いているドクター・ワトスンに代わり、と表現するのはあまりに大袈裟ではあるものの、確かに助手のようなことをしている。
させられていると言ったほうが正しい？
どういう経緯でこういうことになってしまったのかは、別の機会にまた語ることとしよう。ヒントをひとつ述べるのであれば《幻異（シャドウ）》なる単語ひとつになるが、今回はここまで。ともあれ、メアリには学業の他に「ホームズ氏の手伝い」なる仕事が割り当てられ、なんとか務めているといった状態なのだった。彼の捜査行に付いて行ったり、犯人当ての現場に同席したり、事件の捜査資料を関係性と方向性ごとに整理・分類したり。山のような蔵書が眠る書斎を掃除したり。
そう、山のような蔵書！
個人のレヴェルを遙かに超えた氏の蔵書たるや！
「ここが私の書斎だ」
と、ベーカー街の彼の部屋の扉を開けるや否や、目に入ったのは縦長にした図書館とでも言うべき、吹き抜けになった３階建ての建物まるごと一件ぶん！　なんと、氏の部屋の扉は隣の建物と“くっついて”おり、隣の建物はこのように彼の書斎として改造されているのだった。
「部屋の書斎が手狭になったものでね」
「この量は……。え、ええ……。
確かに、ひとつの部屋には納まらないですものね……」

かくして——
メアリ・クラリッサ・クリスティは、小さな図書館ひとつぶんとでも言うべき蔵書の山と格闘を始めることとなったのである。
「これ、ひとりじゃ終わらないわよね」
本を一冊一冊丁寧に手に取りながら移動させて、傷を付けない

ように注意しながら埃は綺麗に取り払う。ペーパーバックのような例外はあるとはいえ、基本的に“本”は価値あるもの。だからこそミューディーズのような貸本店が現代では隆盛であるのだ。特に、この書庫にあるような装丁のよい本などは下手をすれば財産と言っても良いほどで、すなわち扱いには気を付けないといけない。

丁寧に。細心注意して。

なので、かかってしまうのだ。時間が。

既に一週間近く取り組んでいるのに、1Fの整理すら終わらない。

それに、すべてが小説の類というのならあまり分類に気を付ける必要も（せめて著者別くらいで）なさそうなものだけれど、そういう訳にもいかない。名探偵の蔵書は、明確に専門書の類が多く、たとえば医学の本、博物学の本、神秘学や錬金術の本に、それに、英語訳が併記されているものの言語が何語で書かれているのかさえわからない（言語解析の学問を修めているメアリであっても！）おどろおどろしい装丁の、多分オカルトの領分の本であるとか。屍食教典儀、無名祭祀書、怪物とその眷属、ネクロノミコンだのと、本のタイトルがまたご丁寧なほどにおどろおどろしくて溜息が出てしまう。けれども子供の頃であれば、余計な想像力を働かせて、もしかしてかの名探偵は恐ろしい黒魔術を操る怪人なのではと疑って震えて泣き出してしまっているかも知れない——

「一部の紳士はオカルトを好むというけれど」

首を傾げて、メアリは呟く。

「こういうもの、どのあたりまでが“本物”なのかしら」

あの黒い彼、ジェイムズに尋ねればわかるかも知れない。直接尋ねる機会があるかどうかもわからないものの、何となく、本当にただの勘ではあるけれど、機会はあるような気がする。

それよりも。それよりも。今はやることが別にある。

せめて人出がもう少しあれば分類ごとの運搬と収納が効率的に行えるのだけど、ひとりだけではこれ以上はどうにもならない気がする。

どうしよう。どうしたものだろう。

「シャーリィにはまだ無理はさせられないけど、うん、せめて、アーシェやザックを呼べたらいいのだけど」

ザックとよくシティ・エリアで顔を合わせている道っ子（ストリート・チルドレン）のふたりも呼んでみたい。あの子たちは、なんとホームズ氏の手伝いもたまに行っているようだし、その一環ということで報酬を出してやれないかと氏と交渉するのもいいだろう。

「……うん、うん。そうね」

人手を増やそう。

ひとりでは、これはちょっと無理だもの——

（つづく）



シャ）でその装備、何でそんなにひらひらしてるのにパンツがちっとも見えないの？」

不思議そうな、そして小生意気な憎たらしい声が双子の足元から。見ればチョッキにパンツだけという勇ましい格好した男の子が、双子のハウスの床にしゃがみこんでいました。双子のスカートを下から覗きこんで首を傾けていました。男の子と目が合って、双子はにっこり綺麗に笑ったことでした。ただしこめかみに血管がミシミシと浮いていましたが。

「僕ぅ、ちょっと賢そうで、お母さん自慢の息子なんだろーねーっ」

「坊やぁ、でも、お姉さん達のスカートの中を覗くのは、おちんちんにお毛々が生えてからにしようねーっ？」

声は優しかったのでした。声だけは。男の子は、この後凍えるような悲鳴を絞り出すことになります。双子からダブル電気按摩の刑に処せられ、また使い物になる前の睾丸を危うく使い物にならなくされかかって。

「しゃーねーな。いっちょ装備とやら、調達しよっか」「要はアレっしょ？ そこらの奴と同じような服にすれば良いんだろ？」

結局なにも知っていませんでしたが、アイルーさん達を捕えもしたし、双子がどういう装備を着けてくるのか気が不安になりました。けれど戻ってきた双子は、一応はギルドの公認装備をまとっていたのですが

「ニャ、それはスカーX、弐ニャ、どうして？お二人の狩り歴とはまだ加工屋さんにも並んでない筈ですニャ……」

「なんで服を調達するのにいちいち加工屋？」とおけぐぇ？」「こんなの、外にいくらでも転がってるだろ？」

「ま、まさかニャ、コー？」

この夜、村はギルドとの連絡要員であり、狩り場への受付嬢でもあるアイシャ嬢が突然の失踪を遂げたとかで大騒ぎになりました。村中総出で捜索に当たったところ、アイシャ嬢は村に隣接する農場の池の側で発見されました。されたのですが——その時の情景を、村人は頑として口を噤んだとか。アイシャ嬢もよほどひどい目に遭わされたのか、前夜の記憶を失っていたのでした。そればかりか、彼女はそれまでキャーという、ある大型モンスターの幼生体へ妙な愛着を示していたというのに、以降は見ただけで卒倒するくらいに拒絶反応を示すようになったとかで（ちなみにスカルーX装備というのは、ギルドの正式の制服でもあります）。

■装備（武器編）■

「——アイシャさん、また口が開けないみたいですニャ……元気になって受付業務が復帰するまでハンターさん達、狩りには行けニャいですが、それまで得意な武器でも見つけてはいかがですニャ？」

心なしか面窶れしたルームサービスアイルーは、池に面したハウスのテラスで日がな一日、ほぼまっ裸（いつもの事）で酒ばかりかっ喰らっている双子に業を煮やして、また説得に当たっている最中。アイルー族は基本的にこだわらず穏和な種族ではあるとはいえ、さすがにここ数日の双子の行状は眼に余りました。なにしろ見てくれだけは金髪碧眼、スタイル抜群の美女でして、村の若い男などはたちまちくらりとよろめいて、中には夜這いを仕掛ける剛の者さえあったくらい。ところがこの双子、アッチ方面に関しては選別眼がやたら厳しいと性豪、を通り越した凄腕で、夜這って来た男はほぼ一ほぼに叩き返されるかからっからに精搾りとられた挙句に捨てられるかのどちらかで、村の風紀は著しい紊乱の兆を見せてある始末。そもそもハンターの本分は狩りであり、この村に呼ばれたのだって地鳴りの原因である古龍を撃退する為だというのに。

ここは、発心を入れ替えてもらわなくてはなりません。ルームサービスアイルーは、自分の毛皮を剥がれる覚悟で懸命に意見いたしました。

「お二人は、その、豪胆な性格に見えますから、きっと片手剣とかお奨めニャ、重量級をぶちかましてすかっと爽快————」

「アレ、見た目に反してすっげーちまちまっつかなくちゃいけないからやだ」

「で、では、大剣で豪快に斬り……を——」

「それもなー。一撃はでかいみたいだけど、あんなモーションのでかい攻撃、当てるまでが面倒じゃん、ハンマーも同じだねえ」

「で、ですニャら狩猟笛で、スピードをアップして軽やかに……」

「アホかあんた。とっけえモンス相手に演奏会始めるなんて、脳が沸いてるとしか思えない。でか笛とか覚えるの、さっぱり無理」

と言っているように見えて、通り武器師はいしくっていたようで、その上で文句を垂れてくるのですから始末が悪い。

「だいたいさあ、あたしらもともと得物なら目前のがあるし」

と、じゃきりと抜いた銃の塊に、アイルーは構えて再三の駄目出しを出したといいます。

「駄目ニャッ、ボウ、ボウ『ガン』は許されてもリャル『銃』は駄目ですニャアアアッ、せ、せめてリヴォルバー機構のあるヘビィボウガンで我慢して下さいニャアアッ」

——あそこまで謎の技術しこんで弾飛ばすくせに、今更銃もボウガンも変わりあんめぇ……はいはい」

「ライトボウガンあたりと妥協しといてあげるよ。僕はまた床に這いつくばって何をしてるのかなーっ」

またあの男の子が、床から舐めあげるような視線を双子に送っているところ。

「バッカだなー、ハンターのくせにそんな事も知らないのかよ。抜けた体毛、あんた達の陰毛を拾って男達に売りつけるのさ」

双子は、もう水着なんだか鎧なんだか判然としない代物を着けて平然と村の中を歩き回るくせに、何故だかこの男の子の他愛ないいたずらに関しては厳しいようで、またまた笑ったのでした。ただし当然、凄惨というか処刑宣告的な笑みでしたが。

「坊やぁ、そういうエロセコい小遣い稼ぎは、せめてオチンチンの先っぽが剥けチンになってからしようねーっ。それともお姉さん達が剥いてあげよっかーっ？」

「ああ、こういう村の風俗だと、割礼とかやってんのかなぁ？ まあそれならそれで、他のやりようもあるんだけどさ」

男の子は、この後心臓が裂けるような絶叫を響かせることになります。双子によって、その青臭い子のような陰茎の根元を細紐できちきちに縛り上げられ、ぽろりと萎れ落ちる寸前まで追いこまれてしまったので。

まあ、これについては村からの賛否とはいえ曲がりなりにも私宅であるハウスに無断で上がりこんで、床を這いこそを覗っている男の子に罪はないとは言いきれません。

■そろそろ狩りに行こう！■

「それは、またそのうちにね。やー、今回は割愛。いー所を紹介してくれたわあ」

「あの最低男も、たまにゃあ気の利くってか」

「うう、せめてお使いクエストくらいはこなして欲しいですニャ……いい加減村の皆さんの目も……厳しく……」

「まー堅いこと言うなや。さすがにあたしらも、食い物とかなくなったら狩りに行くしさ」

「今『喰』るじゃなくって『狩』るって言ったやあ！」

——というわけで、伝説級の双子の航海士、シサーとサラが狩りに赴くのは、もうちょっと先になる様子です——

——一時閉幕——

信天翁航海録寄港文

＊シサム＆キリラ・七方村編＊

■来訪■

　ええ、そこはかの著名なミナガルデ、ドンドルマが在する中大陸やロックラックの新大陸からは遥か隔たった、孤島、と称される絶海中の島の沿岸、その浮しに浮かぶ村でございます。村全体が組み上げられた木造の足場の下に築かれておりまして、海面下にはなにがしかの土台が一応あるようですが、異国よりの旅人にとってはどうにも危なかしげに見えるようです。
　七方の村、七方村などと呼ばれておりまして、大海のど真ん中の僻地も僻地、日本であれば晩境ケッな楽園ならはソーハグコツか、こんな孤独ですが、これで海上貿易の要衝として知られており、なかなかに村内は活気づいた風情であります。
　そんな七方村を、近頃騒ましておりますは怪現象というのが、謎の神隠りだそう。
「これはきっと、かつてこの村の村長を瀕死にまで追いこんだ海面の断襲来の再来なのだろうとて、村はとうとう助っ人を呼ぶことにいたしました。すなわち、ハンターギルドから村専属としてのハンターを。
　旅や死なども相手にしている様なハンターとはありません……いやそれだって考えてみれば死と隣のシーノ仏のですが」
　ハンターはハンターでもモンスターハンター。世界を跳梁跋扈する、大小様々な怪物どもを狩りたてる新興の狩人達です。
　そして今日、そのハンターの来訪を見るということで、村内はどこか落ち着かない空気に包まれております。やってくるのはいかなる腕利きか曲者か。まあ己が村内にも屈強の男共はあるのに、お余所者に頼らなくてはならないというのはどうにも間抜けた状況です。そこはそれ、前は前。
　たいたいこの手の村落というのは構成人員が偏かでも欠けますと、たちどころに生産と消費のバランスが崩れて飢えて死ぬるか共食いを死ぬるかというギリギリの均衡の上に成り立っておりますもの。下手にモンスターに挑んであたら命を散らすのは余所者だけでいいという、ミラにもドライな打算もあった事は否めますまい。
　ともかく、そんな胸の裡は、わたしら余所者かつ穏和、しかして質実剛健な海の民でござい的な偽りの笑顔でしっとり巧みに修飾しつつ、村長筆頭に一同が待ちわびておりますと。
　帆船の、汽笛と共に入港して参りまして、降り立ったのは、見事なまでに充実しました若者二し、なやかな四肢、陽光を溶かしたような金髪の、女
——ちなみにモンスターハンターなし、いかにも精悍な若者とはありますかな性は珍しくありません。むしろ狩猟の見た目的に、敢えてこの職を選ぶ女性、狩りと多うございます。なので女だったのはいいとしても。
　その数、二人。しかも右と左が寸分違わぬ同じプロポーションに同じ顔、どうやら双子と見えましたが、ここまで似通っているのも珍しい。
　基本的に専属ハンターというのは各共同体に一人が原則なのでして、村人全員が面食らったことは言うまでもありますまい。
「うんむ…お前さん達が、ワシらが呼んだハンターに間違いなさそうだが……」
「たが、人って言うのは、ギルドの掟から外れているような」
　とりあえず村の代表である村長とその息子が首をひねっておりますと、双子のお嬢様方達は互いに顔を見合わして、こちらも首をひねりました。それからややおいて、口を開いた姿というのが
「シサム、何か残念じゃない、この村の連中」
「あーあたしもそう思ったさ、キリラ」
「何で女衆中がメイテコで、男衆が尻丸出しなんか？　キャップスはいい着けとるたまいえ」
「こんな生醜かくと潮ッ気だらけなのに、尻を晒やすの××してんの女衆？　諦めなくなるの？」
「かステテコとかメイテコと来れるんじゃね？」
「そーそー、で男達は、そんなに尻見せつけたいわけ？　見てもらいたいわけ？　みなむっさいケツ、岩の一つもやらん事にゃあ、見たくもないんだけど」
「ってなわけでさー、このあんた、とりあえずはそのトシブンたかソリーノたかし、例の着物で祈てみな？」
　言い出したのがこれでございます。空気を取られた村長も息子が口ごもっておりますと、早速に取り出しました例の着、有無を言わせず一等さの中に押し込みまして、
「それ脱ーれ！」「そら脱ーれ！」「村テ？のムネコの、あちょっと良いトコ見てみたい！」「脱るなら脱らねば！」「ほらほら元から脚れてる尻でえ」「例の着一体脚ったじゃぁ」
　などとやんややんやと陽気に難したてまして、息子、ついうっかり乗せられました。こう、双子に背を向けて、ボディビルで言うところのダブルバイセップスバックのポーズを取りました。背筋の山脈や尻えくぼなーきりぼかる石万満点のポーズでございました。と、呼吸を揃りまして一呼
「ファイッ！」とここでの中国拳法家の発勁のように息んだ、その瞬間。
　例の着口事に食い込うに、なったはいいものの、
「おんぎゃあああああ！　さ、刺さった、折れたほっ刺れがおいどに刺さったあああああ！」
　と感じた所に深と刺さった棘に壮絶な悲鳴を噴き上げつつ、辺りをのたうち回ってさあ大変。尻血も噴き上がってさあ大変。この後、週間ほど息子は用便も困難なサマに成り果てたそうで。
　ともあれ、そんなこんなと双子は、うやむやのうちに村のハンターとして収まったのでした。

■装備（防具編）■

一ハンターさん、お目受けしましたところ、お二人の装備はあの伝説のヒーラーU装備、それも腰装備のフリルを抜いたエロ装備仕様。大変魅力ですが、そいつはこっちの大陸とはじゃ
「レーシャン過ぎですニャ！」
　双子は村のハンターということで、村居内にハウスを与えられていたのですが、そのハウス付きのルームサービスアイルーからいきなり駄目出しをくらっている様子です。どうやら双子の、紋章付きのリーノジャケットとチェックのメリーツミという衣装が何か別物を思い出させたよう。
なおこのアイルーというのは、直立した猫を思わせる異種族で、この世界に馴染みの深い人間はまず「ネコが喋った!?」と目を剥くことが多いと言います。ただ双子はもともとの所属場所で相当の化け物猫と付き合いがあり、アイルー相手に頑固に目さません。ただ、その音児に眉を寄めて、
「んな事言ったってさお、あたはっかの村で、そうそうべへの狩人なんとあんめえが」
「それともなにか？　とめえはあたしらと馬か、ッせえならさっさと変えろとそう当てこすってんのか？」
「ち、違いますニャ。アタシはハンターさんたは装備が大切って事をいいたいのですニャ。そうらのホッケメに簡単な装備が入ってますので、それを身に着けて、狩りに行って素材を集めて……」
「えー、面倒くせえ」「うん、やだ。かったるい」
　……モンスターハンターの存在意義をいきなり大否定され、ルームサービスアイルーは、故郷のアイルー村に帰って農場アイルーに転職したくなったと言います。それをぐっとこらえ、更に説得しようとした時に、
「マ？なウなた世。だいたいハンターのくせにオハ

■前回までのあらすじ

高校3年となり、大輪女子への進学を祖母から強要されるダリアと梅。
ダリアの祖母は女雪力士として大成した後の侘助、梅の祖母は厳格なマイであり、逆らおうものならビンタが雨あられと飛んでくる。
二人は結託し、自分たちと同年代だった頃の祖母達を倒して説得の材料にしようと企み、ほわほわと歩いていた後輩・蝶子も巻き込んで現代へタイムワープする。
ダリアは、侘助が鬼百合に頼まれて買ってきたバウムリンデを奪い、まんまと大輪女子女雪相撲部を斜塔に呼び寄せた。
果たしてダリアと梅は勝利して自由な未来を手に入れられるのか！？
そしてバウムリンデの運命は！？

■斜塔編

っていうかさぁ、勝ったとか負けたとか関係ないくらい凄い取組になっちゃって。
あとでシバちゃんとかマイさんから聞いたんだけどね――

～死闘！　第１階層！！～

「いじわるぅ！　もぅ蝶子ぉ本気出しちゃうんだからねぇ！！」
「自分も本気でいくっス！！　そしてバウムリンデを取り返スっス！！」
「ってぇ、ちょっと待ってねぇ……ごそごそごそっと」
「ん？　懐に何か隠してるんスか？」
「じゃ～～ん☆　これだよ～♪　必殺！　マグネティック・ウィーップ～♪」
「な！？　なんスか、その棒！　そんなの振り回したら反則っスよ！！」
「え～？　こっちのルールだと反則なの～？
でもぅ、今回はいいよね～☆　いつも観てるプロ女雪相撲だってぇ、武器使わないのは大輪女子のＯＧだけだし～♪　じゃあいくよ～♪　えーーい☆」
「うわーーーーーっ！！」
「えっへっへぇ♪　つっかまっえた～☆　もう身動き出来ないでしょ～♪　蝶子ちゃんのマグネティック・ウィップは～周囲の磁場を自在に調節してぇ攻撃も防御も……拘束までできちゃうんだからぁ～♪」
「こ、こんなの……どうやって……た、立ち合……ガク……」
「あ～、ゴメンねぇ～。蝶子ちゃん、ちょ～っと本気出し過ぎちゃった～♪」

なんか蝶子ちゃんがリレーで使うバトンみたいのをブンブン振り回したら、シバちゃんが何かに縛られたみたいに身動きが取れなくなっちゃったらしくて。
でね、ドンドン縛りがキツくなって気絶しちゃったんだって。
もうさ、セロかＤａｉＧｏかって話よ！　あ、ＤａｉＧｏっていってもバンガードじゃない方ね。そそ、消費税の孫の方じゃなくてスプーン曲げる方。
で、で、マイさんの方もさぁ――

～炎上！　第２階層～

「ごめんなさい。貴女ではないみたい。どうも下から気配が……」
「よそ見している今がチャンス！　必殺！　ブラスト・アイ！！」
「メガネが……！？」

なんかメガネの……棒の所……それそれ、ツルの所が光ったんだって！
そしたらビーーーってビームが飛んで来て、床とか壁とかが燃え始めちゃったらしくて！

「ケホケホ……火と煙が凄くてお祖母様の姿が……でも、いくらお祖母様でも亜光速で射出された重粒子ビームは避けられないはず……。つまり私は……お祖母様に……勝った……勝った！　やっとお祖母様に勝てた！！　これで私は自由に大学を選べる！　東大に行ける！！」
「外道……」
「はっ！？　……上っ！？　て、天井に張り付いてる！？」
「神聖なる女雪相撲の土俵で凶器を用いるとは……絶対に許しません！！」
「お、お祖母様！！　ごめんなさい！！　これは野良の立合で……公式戦ではないので、いつも言われているように武器禁止は適用されないのかと……」
「貴女がその気ならば、私も遠慮しません！！
禁――」
「ごめんなさい！　ごめんなさい！　もうしません！！　もうしませんからぁ～！！」
「禁・必殺！！　テト攻勢っ！！」
「う、うわーーーーーっ！！」

～闇の第３階層～

「あの、三ツ葉さん、なんか焦げ臭くないですか？」
「ん？　タバコはちゃんと携帯灰皿に入れたぞ？」
「三ツ葉黒関……階段から煙が……」
「む！？　火事か！？」
「ふっふっふっふっふ。梅の奴、本気を出したみたいね」
「本気って……ねぇねぇダリアちゃん、下のメガネの子、そんなに強いの？」
「あたしと同じくらい……強いよ？」
「えっと……本気出すと火事になんの？」
「梅はね。あたしの場合は……」

ダリアちゃんがもったいつけてる間にね、下の階がバババーーンって爆発して！！

「雛菊！　やべーぞ、ここ！！　なんか傾いてやがる！！」
「三ツ葉黒関、ここは最初から傾いてませんでしたか？　だから斜塔って……」
「床は平らだったろがっ！」
「……ぐっ！！」
「三ツ葉さん！　今は雛菊さんにビンタしてる暇ないですって！！　早く外、逃げましょう！！」
「おう！　そうだな！！」
「ちょっと待って！！　その前にあたしと決着つけてよ！　そのためにわざわざ来たんだから！！」
「そんな時間ないって！！」
「大丈夫よ！　一瞬でケリつけるから……必殺のブラックホール張り手で……！！」

～斜塔入り口～

「部室に誰もいないから、もしやと思って来てみれば……」
「大変ダスー！！　火事ダスー！！　こんな危ないところには誰もいないダスー！　早く大学に戻って消防車呼ぶダスー！」

その頃さ、やっと小百合さんとサモちゃんが斜塔まで来てくれたんだよ。

「山火事になったらワシらも死ぬダスー！！
こんな事なら高校卒業したときに入籍だけでもしておけばよかったダスー！！」
「ええい！　落ち着け！！」
「ぶみゃん！！」
「……落ち着いたか？」
「落ち着いたダス。でも危ないのは事実ダスよ？」
「中に人がいれば私達より危ない。違うか？」
「そうダスが……」

「佐萌道はここで待っていろ。私が中を見てくる」

〜第１階層〜

「む。豆斯波が……」
「あれ〜？　おかわりの人が来たの〜？　蝶子ぅ聞いてないよぉ？」
「お前が豆斯波を倒したのか？」
「そうだよ〜ん♪　蝶子ちゃん強いんだから〜♪　お姉さんにもぅ勝っちゃうよぉ☆」
「……待て。この香り……まさかバウムリンデを食べたのか？」
「うん♪」
「そうか。ならば遠慮は無用という事だな」
「遠慮しなきゃいけないのは、蝶子の方だって〜♪　さっさとお姉さん片付けて、バウムリンデの最後の１個食べなきゃ〜☆」
「お前と立ち合っている暇はない。……バウムリンデはくれてやる。豆斯波を連れて外へ避難しろ」
「や〜だよ〜♪」
「その棒は……」

〜第３階層〜

「大丈夫よ！　一瞬でケリつけるから……必殺のブラックホール張り手で……！！」
「なにその今どきの中２でも付けないような厨二臭い名前！　ダリアちゃん高校生だよね！？　大丈夫なの！？　後輩とかに裏で笑われてない？」
「大丈夫じゃねーのはテメェだろ、侘助ー。ガキだって必殺技持ってんだぞー？　お前はなんかあんのかよー？」
「う……」

ほ、ほら。あたしって器用じゃん？　だから満遍なくなんでもできちゃうし、必殺技なくても勝てちゃうから……ほ、本当だって。

「え？　侘助さん、必殺技ないの？」
「…………」
「大学生なのに必殺技ないとか……プっ」
「笑ったなー！　ガキのくせにー！」
「侘助ー！　それは相手の挑発だ！　感情的になるなー！　」
「分かってますよ、雛菊さん！！　ちょちょっとヒネって大学生の強さを思い知らせてやりますよ！！」
「マジでさっさと終わらせねーとヤバいからな！！」
「どすこい！！　任せてください！！」

■みんなでどうにかしよう！　女雷力士物語

無事に三重の塔へ乗り込んだ大学女雷力士達。１勝１敗で迎えた最終戦。彼女たちの戦いの結果を決めてしまおう！
今回の募集項目は以下の通りです。

１：第３階層で勝つのはどっち？
侘助かダリア、どちらが勝つか名前を明記しよう！

２：連綿たる大学女雷相撲
大学女雷相撲の未来と過去、どちらを見たいか明記しよう！

みんなの熱い回答を待ってるぞ！！

※回答結果は次回の当コーナーに反映されます。投票数の多い結果を採用します。
※このコーナーでは基礎投稿点１点の他、今回は回答１項目につき２点が加算されます。



『1908：本の山と、きみ』

行くあてのない旅のさなか、わたしは読書をするようになった。

と言っても、装丁のしっかりした本は嵩張ってしまうのであまり数を持ち歩くことができない。歩行形態から転形態に変形させて“転つきの鞄”のように偽装したジョンがいても、やはりわたしの、指名手配者のエリシア・ウェントワースであるわたしの旅で荷物を必要以上に増やしてしまうのは上策とは言えない。

だから、わたしが近頃読むようになったのは、それまでの機関工学や数学といった専門書ではなく、機関車駅の売店で売られているようなペーパーバックだった。ハイスクールの頃までは、こういう、専門書以外の物語などもよく読み耽っていたのだけれど、大学に入ってからは読まなくなっていた。だから……。

……ううん、いいえ。違うわね。

読まなくなったのは、あの日、あの時から。

あなたが消えてしまった日から、ね。アラン。

こうして、読むことのなくなっていた類の物語を幾つも読んでいると感じることがある。思い起こすことがある。心をばらばらにしてしまって、ひとつひとつを冷たい土の下に埋めてしまうよりも前のわたしがどういう人間だったか、どういう女の子だったか。

まさか自分がロマンスの当事者になるなんて思っていなくて、それでも憧れて、憧れて、少女らしさに溢れていた女の子。それが、エリィと呼ばれていた頃のわたし。今は、どうだろう。少なくともＮＹを訪れる前はそんな風ではなかった。でも、今は？

今はどうだろう。

ヴィヴィがいたら「どうなのかしら」と尋ねることもできるのだけれど、今は、わたしはひとり。

こうして停留所の長椅子に腰掛けて、第３キョウト・シティ行きの二階建て蒸気バスが来るのを待ちながらペーパーバックを広げて、ほんの２フィートほどの近くまで寄ってきて「キレイナガイジンサン、ドコイクノ」とカダス語によく似た現地語で言葉を掛けながら笑顔を向けてくる子供たちに笑顔を返す、わたし。今は偽名を名乗るほうが多い、エリシア・ウェントワース。

「キョウトへ行くの。会う人がいるから」

この極東の国では、英語が幾分か通じてくれるのがありがたい。

英国と同盟を結ぶことで発展を遂げたこの国では、公用語ではないにしても英語教育が初等教育に組み込まれているらしく、英語以外は殆ど喋ることのできないわたしでも旅することができている。

わたしはペーパーバックを閉じると、話し掛けてきてくれた子供に向き直る。何を話そう。きちんと話せるだろうか。黒い瞳を見つめながら、わたしは少し逡巡して、

「……あなた、本は読む？　どんな本が好き？」

◆　◆　◆

近頃、我が女王に微細な変化があった。

知識に対して積極的な欲求を見せる機会が増えている。

マイ・レイディ・リリィ。彼女が独立した現象数式体（クラッキング・ビーング）としての性質及び著しく強力な能力を有しているのは、かつてのヒュプノスの一件から明確な事実だが、僕はそれが彼女の「無知」もしくは「無垢」という特性に依っているものと仮に判断していた。

この判断は、僕を形作った主な要因である故人アラン・エイクリィが彼自身の蔵書から得た知識を根拠としている。

すなわち『小惑星の力学』『ネクロノミコン（英語版。不完全なもので、およそ２０ページぶんの切り抜き）』といった、ある種の宇宙解釈についてが記された異端の書だ。かの《黒の王》についての記述も存在する。

それらには宇宙中心核とでも呼ぶべき存在が記載されていた。

すなわち無窮の中心、奈落の底の混乱の不定形の暗い影、時間を超越した想像を絶する光なき果て。そこに座したもの。宇宙の中心。核。宇宙そのものである“外なるもの”の王、もしくは女王。既に今は玉座から消えた、果ての中心からすべてを見つめた黄金の瞳。（余談だが、黒の王はこの王もしくは女王の精神に寄り添う代行者もしくは騎士であるとするのが僕の結論でもある）

名は仮に　A.Z.T.T　としよう。

その特性こそが「無知」もしくは「無垢」である。

我が女王に一致する特性だ。

けれども、僕の仮説には大いなる問題が残る。

地下世界を脱出して後、クリッター・ハウラーインダークネスという新たな力の形態を得た僕には、恐らくは《黒の王》のものと思しき情報の一端が発現している。これまでにも「影」と「黒」を操っていた僕には、大なり小なりその素養、属性が備わっていたことは明らかだが、現在はその量が増大している。それ故に更新された僕の頭脳情報によれば、リリィにはA.Z.T.Tとの関連性を示すための重要な要素が欠落している。

すなわち、黄金瞳。

かつて存在していたとされるA.Z.T.Tの黄金の瞳を、我が女王は欠片たりとも受け継いではいないのだ——

◆　◆　◆

最近、ちょっと、凝っていることがある。

毎晩、Ａに本を読んで貰うことがリリィ・ザ・ストレンジャーの日課であって、「読書」の基本的な形態であるのだけど、最近はそこに「たまにある特別な」形の読書が加わった。

すなわち、興味を持った分野にある意味で関わりそうな本をＡに山ほど１輌だけの地下鉄の「部屋」へ運んで貰い、それらの本をちょっとずつ「つまみ読み」するという形。つまみ読みという言葉は、まるでパーティでさまざまな料理を少しだけ食べるかのようだ、というＡの発言に対し、

「そんなに大したものじゃないよ」

と、リリィが何分かうーんと考えた末に述べた言葉だった。

つまんで読む。つまみ読み。

つまんでいるだけだから、あまり大したものじゃない。

理解を深めるために読んでいるのではなくて、とある事柄を知ろうとするものの、それが記載された本に書いてある表現や存在がわからないので別の本を読んで、そこでまた不明の表現や存在



があると別の本を読んで……といった形。つまみ。つまんで。つまみ読み。

「うーん。コカノキって、結局、危ないものでいいのかな」

今夜は、コーラの存在を知ったのでつまみ読み。

一口に説明しようとするAの唇に「だめ」と指を当てて、自分で調べ始めたのだけども——

「うーん。うーん？」

「いいかい、リリィ。それはね」

「待って！　まだ、まだだめ、まだ諦めてないから」

「そうか」

「うん。……えっと、コカ・コーラ社？　だっけ」

「ああ」

「その会社の本、もっかいみせて？」

「ああ」

「えーと、刺激的せいぶんを……原料は？　原料なんなの？」

「そこは次の」

「だめ。答えは言っちゃだめ」

ぴしり。

ひとさし指をつきつけて（人を指さすのは失礼にあたるという礼儀はまだ教えて貰っていない）ぴしりと言ってのける。

まだ、早い。

わからないことは山ほど。

Aは、そりゃあ、多くのことを知っているから簡単に教えてくれはするだろうけど、ちょっと悔しい。せめて自分で興味を抱いたことぐらいは、できれば自分自身で探しあてたい。

そう思うから——

「あたしが自分でがんばってみたいの。

でもね、いつまでもずるずるやってちゃだめだとも、思う。だからあと５分。５分だけ待って。それでもあたしが見つけられなかったら、その時は、A、教えて」

「イエス・マイ・レイディ」

「５分ね」

「ああ」

——結局、それから３０分かかってしまった。

（つづく）

花魁春秋

「おや、蛍かい、風流だねぇ」
「うん、昼過ぎに、売りに来てたから、買っちゃったの」
部屋をのぞきに来たお蝶の声に、珠琴は寝転がったままの姿勢で答えた。
その珠琴の目の前に置かれた虫籠、その中に数匹の蛍が、淡い光をまといながら舞っている。自分たちと、[illegible]とは比べるべくもない小さく狭い空間を。
「ああ、もうそんな時期なのかねぇ」
行灯を部屋の隅に移し、天井から下がっている[illegible]明かりを落としている珠琴の部屋。もとより、窓から差し込んでくる通りからの、店の軒につるされた提灯や、向かいの店の部屋からの明かりの方が強いくらいで、そこまでしているからこそ、蛍のか細い光も映える。虫籠の中に、二匹、三匹の光が漂うように舞っている。
「暑さもこれからだろうけど、蛍を見てると[illegible]えてくる気もするわねぇ」
「うん……」
見入るというほどでもないが、蛍から目を外さないまま、珠琴はお蝶の声に答える。しかし、その返事もどこか夢心地で。
「今の時期なら、みんなの部屋にも蛍を置いてもいいかもねぇ。部屋の明かりを落としてさ、そうやって[illegible]のも風情があっていいって、お客様も喜びそうだ」
「もう、そういうんじゃないんだけどなぁ」
珠琴の声に、わずかに不満気なものがにじむ。
「おや、面白くないの。お客様が喜びそうって言うのに、あんたは腹を立てるなんてね」
[illegible]はその珠琴の返事に、むしろ面白さを感じたらしい。[illegible]部屋で遊ぼうとも、[illegible]ためにと[illegible]はずなのに、今日は[illegible]としてはめずらしいことを[illegible]と、自発的に[illegible]して、[illegible]この部屋に飛び込んできたさまざまの珠琴に、わずか十日ばかりの命を、身を焦がせながら散っていく蛍に我が身を重ねたというのだろうか。「[illegible]身をのみこがす蛍こそ、いうよりまさる思ひなるらめ」、そんな歌をお[illegible]が、昔[illegible]物語から教わった話を思い出す。
「もう……[illegible]、お蝶姐さん、今の言い方、文御どのみたいだったよ」
「おや、[illegible]……おやおや、あたしにも文御どのの商売っ気が移っちまったかねぇ」
「うん、ほんとに文御どのだったら、そう言いそう。明日にでも、蛍をたくさん、買い付けてきそう」
「そうかもしれないね。でも、宴席では風流かもしれないけど、床入りの最中に蛍がチラチラしていたら、落ち着かないかもしれないねぇ」
「うん……、そうかも」
古来より、蛍の光を人魂になぞることもある。[illegible]という。儚い様は、幽霊を思い起こさせる。事の最中にそんなものが目に入ってはと考えると、あまりいい案とも言えないと、珠琴とお蝶、二人同時に思ったのだった。
「さ、あんたも蛍はそのくらいにして、いい加減、明かりをつけな。もうじき夜見世になるってのに、部屋がまっくらなんて縁起が悪いと文御どのが怒鳴り込んでくるよ」
「だってぇ、今日はお客様誰も来てくれないんだもの」
「この時期はどうしても客足が遠のいちまうからね。だからこそ、来てくださったお客様を、熱心に[illegible]るんだよ」なんだい、顔も筆も[illegible]出してきちまって
そう言って、珠琴の[illegible]、[illegible]の光が[illegible]、散っていく。どうやら、[illegible]る途中で命尽きとなったらしい。
「こんなんじゃ、次の紋日で[illegible]をかくことになるよ」
「はぁい……」
[illegible]、[illegible]で、珠琴はようやく蛍から目を離し、身を起こす。
窓の外、通りからの喚声も、今日はどことなくおとなしく聞こえる。それでも今夜も、吉原の一日はまだまだこれから。蛍の光に吸い込まれて束の間、それを忘れていた珠琴も、[illegible]を思い出して、行灯を手元に引き寄せた――。

◇　◇　◇

江戸時代に用いられていた暦は、現代では旧暦としてカレンダーなどにも載っています。実際には、いくつかの暦が切り替えられていたのですが、明治時代に現代使われているグレゴリオ暦に改められた直前まで用いられていた天保暦が、旧暦の基本になっています。旧暦付きのカレンダーを見ればわかりますが、旧暦は現代の暦より、一ヶ月以上ずれていたりもしています。これは、旧暦の基本が月の満ち欠けを一ヶ月としているためです。太陽暦に対して、これを太陰暦と言います。

江戸時代において、1月から3月を春として、4月から6月を夏と呼んでいました。[illegible]の時季を基本としていたのです。[illegible]を指す言葉であることも、[illegible]を水無月と名付けたのも、[illegible]。

春から夏にかけては、一年を通じて見た時に、吉原は「暇な時期」にあたります。[illegible]か、客足が遠のいていたようで、この時期はあの手この手で客を引くことに苦労していたようです。秋になれば、行事も多く、[illegible]たようです。「暇な時期」といっても、それなりの入出はあったようですが、[illegible]の庶民も手近な岡場所で用をすませるようになっていったのでしょうか。

江戸の物流は、様々な行商人によって支えられていました。江戸の町には、様々な物売りが行き交い、町民はその物売りから日用品や、野菜、魚などをまかなっていました。蛍の虫売りもその一つで、江戸の町に季節の風物を売りに来ていたとも言えます。変わったところでは、近郊の農村から、便所の糞尿を買い取り、野菜などで支払いをしたりもしていたりもしました。また、[illegible]の言葉のように[illegible]。有名なところでは、天ぷらや焼き芋など、食事を商うものもありました。江戸時代は、[illegible]業もまた、現代と同じように盛んだったのでしょう。

文交わし（お便りその他のコーナー）

天音　今回もたくさんのお便り、ありがとうございます。
珠琴　えーと、まず多かったのは、これ……『氷笹姐さんのイラストが見たいです』（みくらさん）『めいびぃさんの挿絵も素敵ですので次回は是非氷笹姐さんを宜しくお願いします！』（かいなむつきさん）『そして次回こそ氷笹姐さんのイラストを……！』（ナカさん）……氷笹姐さん、大人気だね！　でも、今回のイラストはあたし[illegible]よ！……あれ？
氷笹　いや、まあいいんだけどね。
珠琴　氷笹姐さん、[illegible]なくていいのかな？
氷笹　まあ、[illegible]けどね。ま、順番が[illegible]ね。
珠琴　そうだね、次はきっと氷笹姐さんだと思うから、みんな、楽しみにしててね！
天音　次は、カナエ一号さんのお便りです。
「[illegible]遊女というと氷笹姐さんが代表的な印

象があったので、珠琴の明るさはイメージにないタイプで新鮮な感じがしました』」

珠琴「ありがとう！」

氷笹「わたしはわかるんだけど、天音って遊女らしいかねぇ」

天音「と、どうなんでしょう」

珠琴「女らしいってことじゃないかな？」

天音「そ、そうなんでしょうか？」

氷笹「まぁ、珠が遊女らしくないってことなんだろうね。子供っぽいところとかね。実際には、十三歳で遊女になった例もあるんだけどねぇ」

珠琴「十三歳！？」

氷笹「数え年だから、今の年齢にしたら、さらに下になるだろうね」

珠琴「は、犯罪だ……」

氷笹「ここはそういう世界だよ。欲が渦巻いているのは、お客だけじゃないんだよ。わたしらだって、生き残りをかけて必死なんだしね」

天音「そ、そうかもしれませんけど……」

氷笹「ま、そんなとこばっかりだったら、ゲームの中も暗くなっちまうしねぇ。いいじゃないか、ゲームくらい、明るい吉原があったって」

珠琴「だよねぇ」

氷笹「ま、父御どのに代表されるような高瀬屋の面々の脳天気すぎるところもどうかと思うけどね」

天音「氷笹姐さんだって、高瀬屋の遊女じゃないですか」

氷笹「だねぇ。わたしも父御どのに毒されちまったってことかね。ま、己を呪ってさめざめ泣いてても生き残れないからね」

珠琴「はい、難しいお話はここまで！　続いて、なんか評判がよかった前回のお話の感想がいっぱい！　『和やかにお正月の準備をする高瀬屋さんの面々が微笑ましいですね。私も天音ちゃんや氷笹姐さんや珠ちゃんが丸めてくれたつきたてお餅を食べてみたいなあ…あ、お増さんのも！　オイランでは江戸の季節ごとの細やかなイベントごとの描写が楽しかったので会報でもそういうのが見られると思うとこれからも楽しみです！』（かいむなつきさん）『本編プレイ時、文字通り花である花魁の三人は勿論、裏方の鉄佐さんやお増さんたちとの日常のやりとりも妙に微笑ましく、魅力的でした。こんな世界なのに、いえ、こんな世界だからでしょうか。ですので、今回の餅つきのお話は嬉しかったです』（ナカさん）『現代と同じような事もあれば全く違う事もある江戸の風物詩、とても面白かったです』（悠季さん）『お餅へたべた作る天音ちゃん可愛いです、可愛い…。私もててどのって呼ばれたいっ。季節ごとの江戸の風物詩という事で、ゲームプレイ中すごく居心地が良かった高瀬屋の様子を再び垣間見る事ができるのが嬉しいです』（しのさん）」

天音「ありがとうございます。みなさんのところにも、お餅を届けられたらいいんですけど……」

氷笹「欲しけりゃ店にあがってきなってとこだね」

珠琴「吉原の行事だけじゃなくて、江戸時代の季節の出来事が遊郭にもあったんですよってことで、紹介してみましたって」

氷笹「なんだか、ゲームに使えなかったネタの落ち穂拾いやってるような気もするけどねぇ」

天音「そ、それは言っちゃダメです

珠琴「次も、江戸時代の吉原のちょっとしたネタを紹介していくからね！　それじゃ、また次の号でお会いしましょう！」



※このページは右からお読みください。

といかにも女子特有の上から被せるような物言いに逆らえず、座ったままの少女に差しだした指先の、刺さった棘を抜く仕草はゆっくりとしているからこその艶めかしさを帯びてあり。軽く開いた口へと少年の指を持っていく力も弱かったのに、唇の柔らかそうなのが蠱惑的で、引き戻すもできず。

ん、と少女が指をくわえ、あ、と少年が戦慄いた。それくらい、指先を包みこんだ、濡れた暖かさは鮮烈だった。血が滲んだ指先の痛みは、たちまちに未知の感覚に替わる、それ、尻から背筋を柔らかくしごかれるような。

そして。ズボンの前、内側があっという間もなく窮屈になって——それは、季節ではなく、少年の体内に芽吹いた春の、息吹で。

そして。少年は見たのだった。今し窓から吹きこんだ風がカーテンを払い、陽を室内に差し入れた、その光の線が照らし出した少女の半身を。木製なのか陶製か、材は知らず、硬い無機質の肌を、四肢を繋ぐ球体関節を。

まさしく人形である、少女の肢体を。暗がりにあっては、生身の体にしか見えなかったのに。

なのに少年は事ここに至っても信じられない。息が跳ね上がったのは目前の情景故にではなく、指先を丁寧に丹念に舐る少女の舌が、口内が、あまりにも心地よくて。生の肉感でもって、れる、と舌を這わせながら少女が囁く、息だって生ぬるい。

「鈴が、女の子に見えて？　それはねきっと。秋ちゃんが暗いところで、灰色の袋を見たなら猫に見えるでしょう？　それとおんなじこと」

「鈴は、鈴子にそっくりに造られたから。本当の鈴子がいなくなっても、その女の子とおんなじに見えるから」

この国の古い考えに、形が似たモノには、似せたモノの存在の本質、魂というべきモノが宿る、というのがある。まして誰かの姿を写しとって造られた人形なら、尚更。暗がりの中にあって人形は、かつてその姿を写した者の魂を宿してしまうのかも知れない。

だがそんな理屈より、今少年を押し包んでいる昂奮が圧倒的に過ぎた。

少年も、昨今のメディアの氾濫故、女性のそういった画や映像で、そういった行為がある事は漠然と認識してはいる。けれど実際の、現実の異性を相手にこうまではっきりと昂ぶってしまった事はない。それなのに、今はこの鈴に、鼓動、激しく、腰の底から喉に迫り上がる圧倒的な内圧、止められない。

カーテンがはためき、光と影の領域がせめぎ合い、無機の球体関節と、華奢に色づいた乳房の頂きが一つの体の上でくるくる入れ替わる。もう少年にとって、人形であろうと生身の少女であろうと。初めて知った情火が、少女を求めさせる。どうすればいいのか判らない、けれどしたい、何かをしたい、この少女と。

「やばいよ……やばいって。鈴ちゃん、なんか、やらしいよ……」

また見すかしたように少女は、笑みを解いてみせたのだった。可愛らしい、同時に淫靡な微笑みを。

「いいのよ、男の子がしたい事、ぜんぶ」

「ふふ……っ。鈴はお人形なんだから、あなたの好きにしていい」

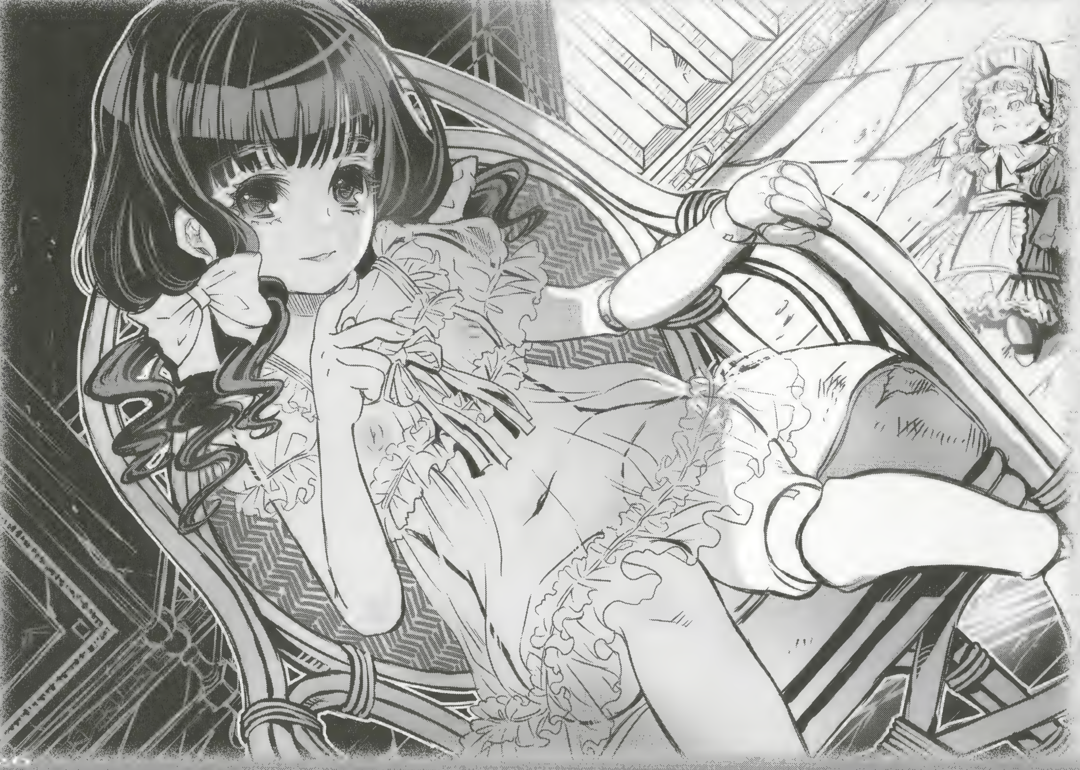
「だから、ね、遊びましょう、秋ちゃん」

するすると、引き上げられていく薄物。ゆっくりと開かれていく、少女の下肢。手を引く力は緩慢で弱いくせに、もう少年は。目眩く情欲、突きあげてくるような、それは、性への——

そして少年は、女の子という生き物が、自分とはまるで違う体を持っている事、その感触全てを知ったのだった。

——翌日少年は、もう一度その部屋に入ろうとしたのだけれど。そこにはしっかり鍵がかかっていて、そういえばと思い出す。大叔母は、鍵を無くしてしまって開かない部屋があるのだと語っていた事を。かくして現実と春の夢幻が曖昧なまま、その洋館は程なくして人手に渡り、だから少年は、あの部屋のあの生き人形がその後どうなったのか、その後知る事もなく。

——春昼人形抄・了——



花散峪山人考外伝 ——春昼人形抄——

丘の向こうから聞こえてくる、時にねだるような時になだめすかすような囀りは、雲雀の声なのだと大叔母から聞いた。少年は長い廊下の開け放たれた窓越しに、聞くともなしに聞き入りながら、退屈しのぎの具を求めて屋敷の中を、あちらの棚を覗きこんだり、こちらの物陰を覗きこんだり。

晩春の連休も終わりに差しかかった頃合いである。日本では連休だというのに、少年の両親は海外で仕事だとかで、空いた家に一人では置いておかれないとそれまではろくに交流もなかったような遠隔の田舎、親戚の家に預けられる事になった。始めこそ都会では縁が薄い、緑濃い地形や田舎の風俗が物珍しくて、村の中、独り歩きもしてみたけれど。やはりそこは今時の子供、野山で一人遊ぶには慣れなくて、結局は親戚の屋敷に閉じこもってぼんやりテレビを眺めたり携帯ゲーム機をいじくってみたりの無為を持て余すようになってしまったわけで。

また今日は、大叔母は連れ合いと一緒に、会合とやらで街まで出かけて一日戻ってこないと来た。大叔母夫婦は、家の中のモノは好きにしていいからと安易にお墨付き与えていたけれど――正直なところ、あれこれいじり回したいと気を惹く程の玩具や漫画の類なぞ見当たらない、というのが実状の。

それにしても、と少年は退屈しきった溜め息を吐く。

(この家、ほんと広いよな。僕のところじゃ、こんな家に住んでるなんて、よっぽどの金持ちしかいないのに)

そう、少年にとってはこの規模の家屋というのはよほど富裕な層の持ち物で、普段は外から眺めるものでしかなく、なのにここには大叔母夫婦の二人しか起居していないとくる。その上に。推理モノの漫画でしか見た事のないような古い洋館だときた。始めこそ心がなにかしら躍ったものの、実際に寝泊まりしてみると、不便なところが目についてしまって、結局は地元の小狭な我が家の方が増しという結論さえ。例えばちょっとの風で窓硝子が五月蝿くがたついたりとか、時折不意に古い木造の梁や根太が家鳴りがして驚かされるとか、陽差しが届かない箇所は黴臭いような変な臭いがこもっていたりとか。老境にある夫婦二人では掃除も手入れも行き届かず、日常に用いる厨房や居間以外の部屋部屋には埃が溜まって薄汚れ。空き部屋だって、何日か過ごしてみると少年が想像したような秘密が隠されているわけで無し、ただがらんと虚ろなばかり、つまらない。こうして一日好きにしていいと言われたところで暇を持て余すしかなく、空き部屋を回る事にも早や飽きて、結局は寝部屋に戻ってやり飽きた携帯ゲームくらいしかない。と踵を返した、少年の背中へ。

ことん、と――

一瞬、屋内まで届いていた自然音が静まり返り、あのしぃんという無音の圧が押し寄せたような気がした。もう聞き慣れたはずの家鳴り? 違う。年経た屋敷がたてる音というにはどこやら人めいて、誰かの気配を感じさせて。今ここには自分以外の誰もいない、なのにあの音は何、通常このような状況下で聞く、何者かの気配というのは恐怖や不安のざらつきでもって肌を擦るもの、なのに、不思議と少年は怯えを感じていなかった。ただただ好奇心を刺激されただけであったのだ。

もうその辺りからして奇妙であったし、その音の聞こえたと思しき空き部屋の扉、なんの恐れもなく開いて覗いたのも奇態。まして。

「あなたは、だあれ?」

澄んで、甘いクリームのような声。

訊ねられて。その子をそこに見て。

窓にはカーテン、薄暗がりなのに。

夕暮れに咲く白い花の様に浮かぶ。

不思議な、その女の子に――するりと。

「あ。僕は、ここの家の親戚の子で。名前は山賀秋生(やまが・あきみ)っていって」

同年代と見えたけれど、初めて見る女子を相手に気後れもせず答えられた事を、不審とすら感じていない少年があった。不思議なのに、その女の子はそこにいるのがいかにも当たり前で自然だったから。そうとしか感じられなかったから。

カーテンが窓からの陽差しを和らげた、優しい物陰の中、藤製の椅子に座したその女の子。それまではこの年頃の男の子らしく、同年代の女子など誰も彼も十把一絡げ、美醜などたいして気にも掛けていなかった少年にして、ああ、可愛いってこういうこの子の事を言うんだな、と頷かせるような、可憐な風貌の。どちらかといえば古風、というのだろう。その濡れて黒い大きな瞳も、小作りな鼻梁に唇も。ふわふわな髪を二つにくくった大きなリボンなどは、まるで昔の少女漫画のような。淡く透ける、下着とも寝間着ともつかない薄物一枚で座っている様子は、そう、まるで、人形の様に。だから。

「そう。あなたは秋生……秋ちゃんっていうのね。こんにちは。わたしは鈴っていうのよ」

なるほど、鈴のような声だから、と勝手に合点する少年に、

「ここのお家の親戚の子、なの? 鈴もここにずっといるわ」

「ずっと……って。僕、君みたいな子がいるなんて知らないよ。聞いた事もない」

「ええ。だって鈴はこのお部屋から、お外には出ないし。鈴、あんまりたくさんは、動けないから」

確かに少女は、少年を部屋に迎え入れてからも、立ち上がる事もなく座したまま。頬にかかる髪を流した仕草も、緩慢で。――

「えっと、どうして? 病気、とか」

「いいえ。鈴はほら、お人形さんだから」

「人形? 君が?」

なるほど、人が起き臥しする部屋にしては、ここも屋内の他の部屋と同様に荒れて、床もぼろぼろ、調度は色褪せたチェストくらい、かつてはそれを慈しんだ娘でもあったのか知らん、ビスクドールらしいのが転がっていて、それが今は侘びしい。しかし少年はその人形を見て、いよいよ違う、との気持ちを強くしたという。だって人形というにはその少女は、あまりにも、そう、生きた人間としか見えなかったので。作り物のように整っていたけれど、言葉を紡ぐ唇は瑞々しい、それにほら、薄い肌着の下では、幽かながらもしっかりと、息づいているではないか、優しく膨らみかけた胸が、柔らかそうなお腹が。

「……っ」

とそこで少年は、今更ながらに慌てて目を逸らした。仄暗がりの中で少女の肢体が、一応は服を着けていたものの、布地の薄さ故にかえって燐光放つように浮かび上がっていた事に、今更ながら思い知らされたよう。

にわかに。晩春の温気が。少年はまだその言葉を知らず、それでも妖しい胸騒ぎをもたらす、官能的な湿り気を帯びていくようだった。同年代であれ年上であれ、少年は異性にまだこのような感慨を抱いた事はない。それ、なのに。

少女の肢体の、自分にはない膨らみや、曲線がどうしても眼を吸い寄せる――

「そうよ。鈴はお人形なの。いつか、きっとずっと昔。本当の鈴は、鈴子って女の子だったのだけど」

「その鈴子を見た誰かが……うぅん、知らない人よ。でもその人が、鈴子とそっくりに鈴を造ったみたい」

「そのあと鈴は、誰かから誰かへ、もらわれていって、今はここにいるのよ」

語られる言葉の真偽に付き合うというより、眼前の少女に覚えた胸騒ぎ、打ち消すつもりでしゃがみこみ、打ち捨てられたビスクドールに手を伸ばし、

「でもさ、人形っていうのは、こういうんだろ? 君は普通に女の子に……あ、痛っ」

拾い上げようと突いた、片手の指先に不意に走った痛みに顔をしかめ、見れば荒れた板張りの床のささくれ、つぷりと刺さって。

「大丈夫……? ちょっと鈴に、見せてご覧なさい」

九星時報

第1回 ★★★

ユリトピア！
百合霊さんコラム第１回です。
今回は大私服祭です。阿野ぉ！

私服イベントは立ち絵数の関係で失われ、名残はドラマＣＤに残るのみ。いつか復活させたいです。
当コラムではＰｅｇさんの絵をメインにしつつ「質問の百合霊さん」として投稿募集いたしますよ。作品への質問にサチ＆恵が回答します。その他、こんな絵見たい、描いてみた、妄想聞いてなんてのも歓迎！　投稿数によってページ数が増えるかも！　では次回！



おたよりのコーナー

LETTERS & POINTS

希さんはなんで１ｐでイラストもあるのに文章４ｋｂも書いてくるのん？でお馴染みのやんばるですこんにちはーこんにちはー（エコー）。とかやってるスペースは今回もないのでした。ちゃっちゃと行きます。

『スチパンのライブが終わり、またライブやらないかな～と思っていたら合同ライブですと！絶対に行く！他のメーカーさんもすごいラインナップだしwrailもあると嬉しいですね！あとはチケット次第か…』　(3789B.B.) 1+3p

９月のB.G.M.Fesですね！　やんばる的にも単独ライブは暫く充電してから、と思っていた矢先のお声掛けだったので飛びついてみました。色々と皆様を「あっと驚かせる」仕掛けも仕込み中です。フェスですのでライアー以外にもいろんなメーカーが！　興味ある方は是非お越しください！　ライアーHPでも今後情報出していきます～。それまでは下記イベント公式をチェケラ！

B.G.M.Fes公式ページ：http://bgm-fes.jp/
公式twitter：@bgm_info

『そう言えば以前に許可を頂きまして、私が製作したサフィズムの舷窓のチロルチョコは届きましたでしょうか？（笑）贈ったのはサフィズム十周年の発起人の河村さんですが………時間が無かったので頼んじゃいましたー』
(1446ふ～ちゃん) 1+5p

届きましたよ！　ありがとうございました～。スタッフも良い記念になりました！　お礼を兼ねてポイントいっぱいいっぱい！

『公式サイトのライアーソフトファンクラブのページに存在している会員専用ページですが、ページをスクロールしないでも入れるようにページ上部に移動するか、フレーム対応して戴けないでしょうか。御検討を御願い致します』
(2730新橋テツユキ) 1+3p

はい！　他にもバックナンバー関連のご要望などいただいておりましたので、一念発起、ＦＣページをリニューアルしてみましたー。まだまだ手を加えるところは多いですが、ひとまず使いやすくなった…気がします。どうでしょうか？　「出来る限り」ではありますが、サイトへのご要望もいただけましたら検討いたしますので是非引き続き宜しくお願いいたします～。

○ぼーん・ふりーくす！

『最近久しぶりにプレイしてみました。ＯＰの曲もテンポが良くて最初から最後まで楽しめました～。このままだとジェネリック版に手を出してしまいそうです（笑）ライアーソフトさんからも、本格的なＲＰＧが出てくるのを心待ちにしています』　(1446ふ～ちゃん) 1+2p

「ぼんふりのＯＰ曲、ＥＤ曲を収録した、宮沢ゆあなさんのアルバム『絆星』が好評発売中ですよ～！　あと、ジェネリック版はいろいろちがうので、この機会にゼヒ」　【たたら】

○蒼天のセレナリアReBORN

『おめでとうございますおめでとうございます！！　ふたりとも、周りのみんなごと幸せになってくださいというかその未来しか見えません！　シェラ可愛いなあ、いい子だなあ。自分も近い将来素敵な花嫁さんに、ママになることを考えもしてないことがらしいですね。レヴィ頑張れ。ニェルレイ物真似はその模様が音声付きで浮かびました。いろいろな人の真似をしたらいいと思います。シェラのジェライラちゃん呼びが意外でしたが馴染んでる様子にほのぼのしました。お相手は……？

なによりイラストのコニーの笑顔が本当に眩しくて幸せそうで感無量です。もう一度、何度でも、おめでとう！』　(2635ナカ) 1+3p

「ありがとうございます。皆さんのご声援あればこそ彼らもここまで至りました。いずれ何らかの形で《まとめ》とプラスアルファをしてお見せできればと計画しています。本当に、ありがとうございました！」　【桜井】

『色んな思いが胸によぎるので何を言ったらいいのかよくわからないのですが、なにはともあれおめでとうございます…！　本編をプレイしていた時にはまさかこの二人の結婚式が拝めるとは夢にも思っていませんでした。そしてコニーさんの心から幸せそうな笑顔が眩しくて、ほんとうにほんとうに御伽噺のような素敵な光景で何回ページをめくっても胸にせまるというか、感動してしまうのです。

あと私はシェラとコニーの関係も大好きなのですが、シェラの独白がまた健気で優しい思いに溢れてて、初めて読んだ時にはほんとうに嬉しくてこっちが泣いてしまいました。

お互い好きな人が出来て家庭を作ってもシェラとコニーはずっとずっと強い絆で結ばれている特別な関係なんだなと再確認いたしました。

セレナリアという作品を、キャラ達を、愛していて本当によかったと思いました。

こんな素敵なプレゼントをいただけて私達ユーザーは幸せです。これからも創作活動頑張って下さい、出来る限り応援していきます！』
(2603かいむなつき) 1+3p

「護国卿さんの素敵なイラストを目にした瞬間に、ぱあっとわたしの中で彼らが動き出していました。こんな感じかな、とぼんやりしていたものがくっきりと像になって、色がついて、音がついて、動き出した瞬間です。これまで応援いただいて、シリーズと彼らをここまで育んでいただいたおかげです。こちらこそ、ありがとうございました！」　【桜井】

『わーわー！　ご結婚おめでとうございます！！　ページを開いた瞬間飛び込んできた幸せそうな二人の眩しさ、そしてシェラの想いに胸を突かれました。二人の未来に良き青空を！』　(3667しの) 1+3p

「彼らと、彼らに声援をくださったみなさまに良き青空を！　他にも沢山の、本当に沢山のお祝いの声をいただきました。全部掲載できないのが残念でなりません。ありがとうございます。大石さんのインガノックReborn記念イラストにも、同様に無数のお声をいただきました。ありがとうございます～！」　【桜井】

○漆黒のシャルノスReBORN

『シャルノスReBORNフルボイスになってて感激しました。漫画の方も男性陣（イケメンパラダイス？）ですが男性陣のフルボイスがすごく良かったです』　(3732なぎまり) 1+3p

「イケメンじゃない人もいるので、メンパラダイスですね！」　【ＡＫＩＲＡ】

「メンパラダイス…！」　【桜井】

『メアリの扱いに笑いました。主人公なのに。シャルノス男性陣ズが大好きです。集まると存在感が主人公を凌駕する！？　レストレイド警部の表情がお茶目でお気に入りです。可愛い！

フルボイスリボーンを嬉しさを噛みしめながらプレイしてますが、ボイスがついてなかったキャラが喋るのが感激です。ますます男性陣ズに調子づいてほしいです。そして、いつか男性陣ズふんどし祭りを拝んでみた……（ｒｙ　アーシェリカ最強と思ってましたが上には上がいたー！　ｍｙシャルノス勢力図が塗りかえられました(笑)』　(3084ニコ) 1+3p

「本編のホームズさんはもっとちゃんとしているはずですので！」　【ＡＫＩＲＡ】

「ホームズはすべてを認識できる人ですので、どんな手でも使えます。実際にホームズさんがアーシェと相対した時にどうするかは…どうするかな…？」　【桜井】

「彼から食べ物を貰う時は注意したほうが良いよ」　【ワトスン】
「…」　【桜井】
「…」　【ＡＫＩＲＡ】

『メアリはトレーニングで走るときどんな格好なのかということがずっと気にかかっているのですが、どうなのでしょうか？何も着ないという過激な説が出て危機感を覚えております。手製の乗馬服か何かでしょうか。それはそれで黒妖精が放っておかない』
（3623anapest）1+3p
「ふ、服は着ています！　ちゃんと着て、ヴィドック卿の発展理論通りに体を動かせるように練習するんです。服は着ます」　【メアリ】

○紅殻町博物誌

『大時計が出てきたのでひょっとしたら、と思ったら、水の都のお嬢様の再登場で嬉しくなりました。今でも令嬢のことが忘れられないのでしょうか…。出会いこそ主人と下女といった関係でしたが似たような境遇の令嬢同士、何か心の奥底で感じるシンパシーがあったのかもしれませんね。オークション会場が再び出てきたのも嬉しいです。てっきり普通の会場だ思ってたんですが、あのような夢と現の境にあるような不思議な世界だとは思っていませんでした。何かの拍子に夢の中で辿りつけたら面白そうですね。普段と違う装いの十湖さんも素敵です、シックなドレスも案外お似合いですね！　智久くんは完全にこれタラシの顔ですわ…』
（2603かいむなつき）1+3p
「旅籠と水の都のそれぞれの令嬢の関係は、せめぎ合うような火花散らすような、けれども根底で結ばれた友誼に拠っています。そして水の都も旅籠と同じ、霞の外にある物語の世界。何時かまた語られることもあるかも知れません」
【希】

『智久さんがイケメンで十湖さんがお嬢様といつもの外見との違いが凄まじかったです。ジョバン二嬢も気になる！』（3680竜宮）1+3p
「智久の服飾のセンスは、一介の学生としては筋が良すぎるのですが、それは原画の天原様のセンスになるモノです。十湖に関しては、ああいう奔放なキャラクターに正装させるのは、一種の飛び道具のようなもの。ちなみにジョバン二のネーミングは、ワールドオブダークネスというＴＲＰＧの世界の、華やかな毒持つ死霊術師の吸血鬼氏族から」　【希】

○どすこい！女雪相撲

『女の子全開な世界なので、それにマッチしているイラストを合わせて楽しんでいます。イラストのすべすべお腹とつるつるお尻触りたい！』　（0674カナエ一号）1+3p
「不用意に触りに行くとビンタが……！」
【岩清水】

○紫影のソナーニル

『エリィ、リリィ可愛い！　コインドレスを着たリリィを見た時、Aがどんな反応をするのか気になります』　（3680竜宮）1+3p
「Aさんは多分顔はかわらないんですよ」
【桜井】
「リリィのわからないうちに着用後の六面図覚えてるんですね」　【AKIRA】

『コインのドレスってどんなのかしら…と思ったら思ってたよりすごいですね…。お腹の所にあのお花が来るのならスカート部分はまた別にあるのか、それともあれでおしまいなのか気になる所です。贈った本人は多少の下心あれど恐らく本気で喜んでくれるだろうと思ってたんだろうな…。ジンジャーさんは華やかな魅力のある女性なのでこの迫力のあるドレスに負ける事なく立派に着こなす事ができたのでしょうが、内心お察しします（笑）　それにしてもエリシアさんとリリィのセンスが見事に合致してて流石だ…！と感心しました。エリシアさん自体が常人とはちょいとその辺がズレてますからね、納得です。お目目キラキラなリリィちゃんと遠くを見てるジンジャーさんのギャップが面白かったです。男性陣は、もうただただ可愛らしいですね…萌え転がりました！！！　ありがとうございます！！！』
（2603かいむなつき）1+3p
「ほんとすごいんですよね、あのドレス…！」
【桜井】
「本物は圧倒的ですよね」【AKIRA】
「そう、実物の写真はもっとすごくて…」
【桜井】

『ルチアーノはアランとの約束を守ってリリィの手助けをしていたんですね。義理に厚いギャング…素敵すぎる！』
（3886タコスＭＥＮ）1+3p
「39号掲載小説へのご感想ですね、ありがとうございます。実はルチアーノさんはアランと出会っているのでした」　【桜井】
「何が義理に厚いものか！　帽子男など！　おのれタコスＭＥＮ！」　【ジャガーマン】

○花散峪山人考

『闇というのはそれだけで異なる存在を意識させ、たやすく人を惑わすのだなと感じました。どんどん自分まで礼子と同じくリンドウの存在に囚われてしまうような感覚に陥り、程よい酩酊感が味わえました。あと永く存在するモノ達の内面や気紛れの一片を垣間見られたような気がします』　（0674カナエ一号）1+3p
「怪談式の、じわじわと気配の圧力を高めていって最後に『出たぞ……！』や、スプラッタの振り向いた瞬間にバーンと大写しにしたりといった演出ではなく、するりと隣人のような顔をして隣にいたモノが実は……という雰囲気を出したかったので、感じ取っていただけたなら幸いです」　【希】

『クリア後の放心してる時に読みました。夜毎に熱中しながらプレイしていたので、結末を迎えて溜飲を下げるも物語を終えてしまった寂寥感でいっぱいでした。サントラを聴きながらクリア後の余韻に浸ったり、「はなちるる」を読んだり。そんな中で、またリンドウさんに会えて嬉しかったです。次回は誰が登場するのか楽しみにしてます』　（3084ニコ）1+3p
「彼岸の彼方へ去っていってしまったモノを再び呼び覚ますのはもしかして不粋なのかも、とあれこれ悩みつつ、ああいった形での再登場となりました。伊波に関わった女達は、どれもこれも結末がアレなので、どういう形での再登場がいいのか——試行錯誤です」　【希】

『特に能とそれに続く場面が絵も文章もきれいで印象的でした。あとは可愛い鈴子ともう少しイチャイチャしたかったです。誰がするのって話ですが…　それでもみんな思いは遂げたというか、燃え尽きたんですよね』
（3623anapest）1+3p
「ゲーム本編でのあのシーンは、企画を思い浮かべた時から入れようと決めておりました。夜闇に浮かぶ能の舞台は現実でありながら、間違いなく現実から飛翔しています。そして可愛い鈴子とのイチャイチャ（なのか？）、今回の外伝でちょっぴりと」　【希】

『railもそろそろフルボイス版で！と思うような主人公の濃さでしたw希さんの作品はどれもテーマが違っていて復讐に駆られる主人公とか最高でした！』　（3789B.B.）1+3p
「フルボイス版……夢が膨らみますよね。例えば伊波だけではなく、過去作のあんなキャラこんなキャラに声がついたら、という妄想は、希自身時々やらかします。皆さまのご声援ご要望をたくさんたくさんいただけたなら、あるいは

もしかしたら――！？」　【希】

○その他のコーナー・投稿募集

『４０号の表紙、あれいちゃん伊波さんと離れてるーと思ったらしっかり遠くから長い縄を持ってる伊波さんを見つけて笑ってしまいました！その執念たるやさすが伊波さん！』
（3667しの）1+3p

『バルーンに乗ったご一同が羨ましい！　ちょうど暖かくなって来ましたので春らしくて爽やかでいいなーと思います。それにしても伊波さんがバルーンに乗ってるともののすごく昭和の薫りがしますね（笑）いちちゃんの縄の長さすごーい！　不安そうにしていてとてもわんこ可愛いです！』　（2603かいむなつき）1+3p

「ありがとうございます！運命の赤い縄はきっと伸縮自在！そして海山ときたら空だよね！（勝手に）と、ご一同には飛んでいただきました。そういえば近所のパチンコ屋さんがあげていたらしきアドバルーンすら見なくなって久しくもはや昭和レトロの領域になってしまったのやもと現在進行性ノスタルジー（造語）」
【Lem】

微妙な余りスペースなので、投稿要項とポイントは新生なったＨＰに回しまして、ギリギリまでその他コーナー投稿を紹介したいと思います。まずは「屋上の百合霊さん」への期待コメントをどーん。

『やさしそうな女の子たちの絵が好きです。百合トピアすてき！』　（2352みぐら）1+3p

『今回は第３０弾って事で、店頭企画「百合霊さんを探せ！」に気合が入っていますのでゲームの方も楽しみにしています。ただ、地方に住んでいるので店に通えないのが悔やまれる～（泣）』　（1446ふ～ちゃん）1+3p

『百合！いいものです。Ｐｅｇさんのイラストやデザイン、キャラの表情もとても生き生きしていて素敵です。期待しています』
（3680竜宮）1+3p

『いい意味でとてもLiar softの新作には見えない・・・此の爽やかさは一体。30作目でもまだ私たちの意表を付く作品のネタは尽きないのか・・・流石Liar、他所のブランドとは違う事をやってのけるッ、そこにシビれる！あこがれるゥ！』　（3192トリスメギストス）1+3p

『30作目おめでとうございます。数作出しては消えていくブランドも珍しくない中、10年以上もコンスタントに作品を出し続けるのはすごいことだと思います。こういう百合姫とかに載ってそうな雰囲気のゲームってそういえば今までになかったなぁと思いつつ、体験版をプレイし終えた後はキャラクターたちの恋の行方もとても気になり、発売を今か今かと待つ日々です。会報での今後の展開にも期待しています。しかし、FC会員としてはメーカーにとって利益率の高いオフィシャル通販で買い支えたいところですが、ちゅるぎみねさんと月代先生が気になる自分としては店舗特典につられてトレーダーで予約してしまったのでした。テレカとかのグッズ系ならともかく、ストーリに関係してくるものを店舗別特典でやられるのは非常に悩ましいのです。。』（3186毒茸ペッパー）1+3p

皆様ありがとうございます！　30作～……遠くまで来たものですねえ。私も設立から居てもう14年目になるわけですが、こんなに長くいる会社になるとは思いませんでしたよ。色んな事がありましたしねえ…（遠い目）。「探せ！」企画に関しては、店舗様の協力的な対応もあり、予想以上に多くの地域で展開することが出来たのですが、それでも入手しなんな場所やキャラクターは発生してしまい、申し訳なかったです。すぐに出しちゃうと、頑張って集めていただいた方に申し訳ないので、暫くしたらせめてＦＣサイトではまとめて聴けるようにしたいなあ～。とか（こうしてまた宿題を増やすのであった）。百合霊さんコーナーは今号からスタートしましたので、是非スタッフやＰｅｇさん宛の感想、ご意見、ご要望などお寄せください。ＢｕｇＢｕｇでも素敵コラム始まってるからチェックしてね！　この会報が届くタイミングの最新号にはカラー漫画も付いているってよ～！

やんばる宛の投稿をスペース許します限り。

『投稿ポイントがたまるのを見ては「ロットアップ特典」を何に選ぼうかとニヤニヤしています。一番レアだったりお得だったりするものはどの作品なのでしょうか？』
（2352みぐら）1+3p

何が一番、というのは難しいですが、過去特典は原則手に入らないものばかりですので、お持ちのゲームの特典をお選びいただくとお得感が増すのではないかと思います。後はやっぱりサントラ関連ですね。リボーンのタイミングで初期サントラは手に入れた方も多いと思いますが、ヴァルーシアやソナーニルは買いそびれた方はここワンチャンスですので是非。あと、社内ではエンバレ特典のパスケースが使いやすいと評判です。私も日常使いしてます。あとＣＡＮＮＯＮＢＡＬＬのキーホルダーと。サルバとーれのピンズも素晴らしい出来です。

『開発室に潜入取材！風の記事で、開発室の様子やスタッフそれぞれのデスクの写真とか見てみたいです』　（3186毒茸ペッパー）1+3p

では早速！とＧＷで誰もいないのを良いことに写真を撮ろうと思いましたが、後で本気で怒られそうなので止めました。私の机は編集中でガッサガサですし。Ｑ＆Ａコーナーの次のネタストックにしておきましょう。ありがとうございます。

『40号発行おめでとうございます！　制作者がユーザー側の声を聞け、ユーザーが制作者側の普段見えない部分に触れられる投稿コーナーや新たに出来た質問コーナーは有難く感じています。今後も会報一番ラストの予告に目を光らせつつ参加させていただきます！』
（0674カナエー号）1+3p

40号記念にカラー表紙するんだった！　と後で思いました。のべ会員数が4000人突破しましたので、記念に次号はカラーにしようかなと考えています。平グモちゃんを頑張っていただいているＬｅｍさんも次のタイミングではお願いしやすくなっている…はず！

『TOPXネタの投稿を見逃しがちなので、投稿稿枠がほしいです』　（2352みぐら）1+2p

あ、ですね！　今回のフォームから追加します！（と言いつつ、フォーム設置時に覚えている自信がないので、設置されていなかったときは「ないよ！」と指摘していただいた方全員に1+5pのボーナスチャンス！……忘れないように努めます）

そうそう、前回の会報ハチポチコーナーでやったバルバロッサの「誰が酷かったかアンケート」。加納が読んでニコニコしたり頭を抱えたりしてました。どこかで発表（？）する機会もあるんじゃないかと思います。私的には「次ぐに潰しちゃう粘土なのに写真のピントが合ってなさ過ぎる」に１票（粘土じゃないじゃん）。

こんな所でスペース切れ。ではまた次号でお会いしましょう～！

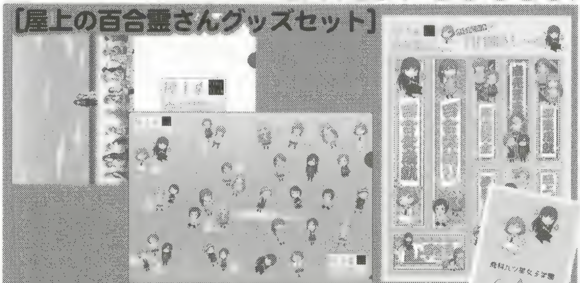
○投稿お待ちしております！

投稿要項・最新ポイントは会員ページ内でご確認いただけます！

Direct shopping for fanclub only.
おみやげ物うりば
How to order your favorite items.

LATEST GOODS!

[屋上の百合霊さんグッズセット]





登校風景のイメージボードと、チビキャラをあしらったクリアファイル2枚組に、開運百合開きシールをセットにしました。通販でお求めいただいた方にはもれなく、右の「商科九ツ星女子学園学生名簿」（フルカラー20p）をお付けいたします！

通販価格　1,000円(税込)

※単品注文の場合のみ、メール便での発送も対応いたします。送料300円を追加でご入金ください。他のグッズ・ソフトと一緒のお申し込みや、宅急便配送希望の方は右下の送料をお支払いくださいませ。

STPN5TH GOODS



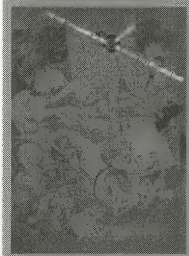
スチームパンクシリーズ5周年記念CD

[ricordo]

この5年間の軌跡を、音楽を通じて辿るメモリアルCD。シリーズ全OP・EDの他、このCDの為にアレンジ・新録したボーカル曲を追加してお届けします。また、ジャケット・ブックレットは、皆様と一緒にこの5年の足跡を辿る旅に出るというテーマで、ふんだんに写真を撮り下ろしました。

通販価格　2,500円(税込)

※単品注文の場合のみ、メール便での発送も対応いたします。送料300円を追加でご入金ください。
※FC通販でお求めいただきますと、もれなくカラオケデータや、年末ライブの映像・ドラマなどを収録した特典ROMをプレゼント！



スチームパンクシリーズ5周年記念冊子

[memorial book]

「紫影のソナーニル」で発売日カウントダウンを飾った美麗なイラスト群。実は多くのデータが、もっと大きなサイズのビジュアルとして存在しています。それらをフルカラーで一挙掲載の他、BugBug誌で好評連載中の「嘘発信機」からインガノック編、シャルノス編、ヴァルーシア編を完全収録&桜井の書き下ろしコメントを追記！　更にライブを彩る展示物の紹介やCDジャケットの撮影風景など、盛りだくさんの内容でお届けします！

通販価格　1,000円(税込)

※単品注文の場合のみ、メール便での発送も対応いたします。
送料300円を追加でご入金ください。

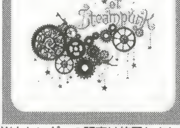


[クリアファイルセット]

紫影のソナーニルデザインのクリアファイルと、シリーズ歴代の広告画像をコラージュしたクリアファイルの2枚組セットです。

通販価格　500円(税込)

※単品注文の場合のみ、メール便での発送も対応いたします。送料300円を追加でご入金ください。



[ライブ開催記念タオル]

ライブロゴと歯車を組み合わせたお洒落なタオルです。マイクロファイバーなので吸水性抜群&携帯や眼鏡を拭くのにもGOOD！

通販価格　500円(税込)

※単品注文の場合のみ、メール便での発送も対応いたします。送料300円を追加でご入金ください。

※カレンダーの販売は終了しました。それに伴いグッズセットでの販売も終了いたしました。

GOODS & CD



[蒼天のセレナリア・ザ・ガイド]

破格の濃度でお送りする、スチームパンクシリーズ唯一の公式設定資料集。シリーズ世界のバックボーンや設定を探るのにも最適な一冊です。

通販価格 1,800円(税込)

※単品注文の場合のみ、メール便での発送も対応いたします。送料300円を追加でご入金ください。宅急便での発送ご希望の方、他のグッズ・ソフトと一緒に注文されます場合は次頁の送料となります。



ライアーソフト初のボーカルコレクション！

[salute!]

ライアーソフトとぶるよぐ・マッツの歩んだ3年半を詰め込んだ、メモリアルボーカルアルバム。勿論全曲、歌うはRitaさん！　新録曲や、曲をイメージした書き下ろしイラストをふんだんに盛り込みました。ライアーユーザー必聴の1枚！

通販価格3,000円(税込)

※単品注文の場合のみ、メール便での発送も対応いたします。送料300円を追加でご入金ください。宅急便での発送ご希望の方、他のグッズ・ソフトと一緒に注文されます場合は次頁の送料となります。

USO. BACKNUMBER

月刊うそ。バックナンバー

[illegible] 1冊400円（税込・送料込） [illegible] 80円切手で受け付けております。[illegible] WEBでもお知らせしております。[illegible]

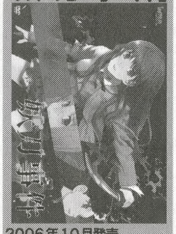


GAMESOFT

第25弾『水スペ川野ロノブ探検隊』までの作品、及びレイル第1弾『霞外籠逗留記』は販売を終了いたしました。 現在、追加生産・通販は行っておりません。一部タイトルは弊社ＨＰよりＤＬ販売しております。『妖刀事件』は市場販売を終了いたしました。同タイトルはＤＬ販売を予定しておりませんが、ＦＣ通販では今後もお求めいただけます。「紅殻町博物誌」は近日販売を終了しＤＬ販売に移行いたします。『ＦＤ３読参子育成計画』『Ｂ級企画』はファンクラブ通販のみの限定商品となり、現生産数のみで販売終了となります。

『FD3読参子育成計画』

2004年11月発売
通販価格　2,000円（送料込）

『妖刀事件』

2006年10月発売
通販価格　6,800円／7,400円

『Round a Go! Go!』

2007年7月発売
通販価格　5,400円（※2）

『B級企画』

2007年8月発売
通販価格　1,000円（※3）

『紅殻町博物誌』

2009年7月発売
通販価格　7,040円（※4）

『白光のヴァルーシア』

2009年11月発売
通販価格　7,040円（※5）

『どすこい！女雪相撲』

2010年3月発売
通販価格　7,040円（※6）

『信天翁航海録』（※1）

2010年7月発売
通販価格　7,040円（※7）

『紫影のソナーニル』

2010年11月発売
通販価格　7,040円（※8）

『ハチポチ』

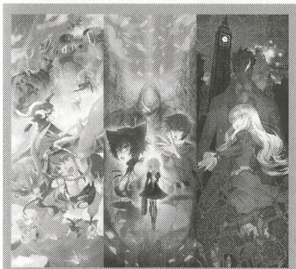
2011年3月発売
通販価格　7,040円（※9）

『オイランルージュ』

2011年7月発売
通販価格　7,040円（※10）

『花散峪山人考』

2011年11月発売
通販価格　7,040円（※11）



『スチームパンクシリーズフルボイスリボーン』

桜井光手がけるスチームパンクシリーズ初期3作品がフルボイス＋ビジュアル増量でお求めやすいパッケージになりました！　ゲームパートスキップも実装して、初プレイにも再プレイにも最適！

※ＤＶＤ－ＲＯＭ専用（※12）
2011年12月発売　通販価格　**各3,000円**

最新作！**『屋上の百合霊さん』**



学園をユリトピアに！　商科九つ星女子学園の2年生、遠見結奈は、人との関わりを最小限に保ち、屋上で昼食を取る日々。そんな彼女の前に突然現れた2人の幽霊は、「女の子同士の恋のお手伝い」を結奈に依頼する。自分たちと同じ悩みを抱えた後輩を助けてあげたい、と。……そう、彼女達は「屋上の百合霊さん」だったのです！

※只今こちらのソフトをＦＣ通販でお求めいただきますと、ＦＣ特典ドラマＣＤと、挿入歌＋ＯＰ・ＥＤフルコーラスを収録したマキシＣＤ「ＡＡ愛！」をお付けいたします・

※ＤＶＤ－ＲＯＭ専用
2012年3月発売
通販価格　**7,040円**

通販特典

※１：『書き下ろしＮＥＴＲＩＤＥカード』付き７４００円（ＮＥＴＲＩＤＥカードはダウンロード販売にご利用いただける金券です。不要の方は６８００円で本体のみお求めいただけます）／※２：卓上カレンダー付き（カレンダーはソフト発売当時の物ですので、今は実用いただけません）／※３：Ｂ級企画は「ＬＯＶＥ＆ＤＥＡＤ」の世界を描いた完全独立シナリオ。単体でお申し込みの場合は、メール便でお送りいたしますので、送料を３００円ご入金ください／※４：おまけシナリオＣＤ「人見十湖のＧ級ソロ日記」付き／※５：おまけシナリオＣＤ「それは、彼女達の幕間」付き／※６：おまけシナリオＣＤ「胸がドキドキ宇宙場所体験」付き／※７：特典冊子「信天翁航海録流出版」付き／※８：おまけシナリオＣＤ「幾つかの、冴えたやり方」付き／※９：特典冊子「月刊うそ特別号」付き／※１０：特典ＲＯＭ「ある大紋日の高瀬屋」付き／※１１：特典ＣＤ「レイルソフトサウンドトラック」付き／※１２：スタッフ同人誌「スチパントリビュート」付き

▼一部、限定特典の在庫確認はメールにてお願いいたします。

■ヤマト便送料

下記に該当しない地区	６４０円
関西地区　北東北地区	７４０円
中国地区	８５０円
四国地区	９５０円
北海道　九州地区	１０６０円
沖縄地区	１２６０円

◎通信販売について

グッズ・ソフトには郵便振替、銀行振込、現金書留、**ヤマト便代引**がご利用いただけます。

①郵便振替の場合
００１４０－１－６００１８４
加入者名　㈱ビジネスパートナー
※通信欄に希望商品名・配達希望曜日／時間をお書きください。氏名・住所・ＴＥＬもお忘れなく！

②銀行振込の場合
みずほ銀行新宿支店（普）５４３１１８１
加入者名　㈱ビジネスパートナー
※入金後、控えをＦＡＸまたは郵送で弊社までお送りください。その際、住所・氏名・ＴＥＬ・ご希望の　商品名・ご希望の配達曜日／時間をお書き添えください。

【控えの送り先】（ＦＡＸ）０３－３３５５－６７３６
（郵送）奥付の住所へ「通販」係宛に

③現金書留の場合
※奥付の住所まで、代金をお送りください。
封筒内に氏名・住所・ＴＥＬ・ご希望の商品名、ご希望の配達曜日／時間をお書き添えください。

④ヤマト便代引きの場合
※ホームページの「**代引き申し込みフォーム**」より、ご希望の商品をご予約ください。折り返し、注文確認メールをお送りします。お申し込み内容に間違いない場合は、１～２週間前後でお送りいたします。お受け取り時に代金をお支払いください。お申し込み内容に間違いがある場合、キャンセルする場合は急ぎ３日以内にその旨メールにてお知らせください。

※代引き以外でのご注文時、メール便でお送りできない荷物につきましては、左の送料を追加でご入金いただくか、着払いでのお受け取りとなります。

※ＦＣ会報・ファンディスクの価格は送料込みです。単体でのご注文時はメール便でお送りいたします。他のアイテムと一緒にお申し込みいただいた場合は着払いでお送りいたします。



投稿者名／悠季さんのトピックスネタ《百合霊は百合の楽園HBPの夢を見るか?》採用させていただきました!

ライアースタッフQ&A

第3回「aina」グラフィッカー

「ライアーのグラフィッカーさんは作品ごとにその作品の雰囲気や原画さんの画風に合わせた毎回違う塗りをされていて尊敬です！　原画を塗るうえで心掛けている事など是非お教えいただきたく思います！」しのさん

原画家さんのイラスト（原画）をよく見て、完成予想図を思い浮かべます。私の場合、作業の失敗を最小限に抑えるために重要だと思っています。困ったときはしまさら御大に相談です。

「最初に塗ったCGはどのシーン（作品）ですか？」以下5問／カナエ一号さん

『サフィズムの舷窓』でソヨンに懐いてる子猫ちゃんたちのイベントCGだったような記憶があります。

「差があると思いますがCG1枚にどのくらいで仕上げますか？」

イベントCGの彩色は１日で２点程度、キャラクター単体（立ち絵）なら１日で３～４点くらいだと思います。絵の密度にもよりますね。

「作品内で個人的に好きなCGは？」

スチパンリボーンのセレナリアで追加された３盗賊が閉じ込められてるイベントCGですかね。こやつらを塗る時が来るとは思ってなかったです。さらに声まで付いて二度びっくりでした。フリィいいですねフリィ。

「仕事の気分転換法があれば何かお願いします」

モニタの前から離れて温かいお茶を飲みます。お酒でも良いです。その後作業になりませんが。

「所謂何萌えですか？」

何かこう、触ったら柔らかそうなものは何でも可愛いんじゃないかと思っています。腹の肉とか。

「グラフィッカーになったきっかけは？」ニコさん

学生の頃からゲーム開発職に就きたいと思っていて、自分のできそうな作業が何であるかと考えを詰めていった結果、CG彩色だったという感じです。絵の作業をしてる間は他の事を何も考えなくて良いから、っていうのもありますね。

以上です。ご質問ありがとうございました。

※質問をお送りいただいた皆様に３ｐ、採用者には５ｐを差し上げます。次回はライターの希への質問、お待ちしております。あ、先に言っておきますが回答が長くなった場合はＨＰで答えますね。

【編集後記】そんなわけで31弾です！■遂にＬｅｍさん原画でぴぅ！■ライアーイズムを知り尽くした絵師が岩清水と組んでどんな作品を生み出すのか■是非近日公開予定のムービー・体験版をチェックしてくださいね■前回予告したネタのうち、３２弾情報とレイルの第５弾情報は近々発表したいと思います■そしてライブ！■エロゲー音楽の祭典「B. G. M. Fes」からお声が掛かっちゃいましたよ■でっかいメーカーばっかりでビクビクしますが、音楽の個性では負けてないつもり■是非皆様盛り上がりに来てください～■投稿コーナーでも触れましたが、結構びっくりするであろう仕込みも用意しています■あー早く言いたい！■次号が出るのは恐らく夏ですね■夏はライアー初の＊＊＊とか■どうなってしまうのか～■ともあれ、徐々に蒸し暑くなりますが元気に参りましょう～■では次号！

会員専用ホームページ ※URLが変わりました！
http://www.liar.co.jp/cgi-bin/gate/gate.cgi
ID：member　pass：uso800
壁紙データ、専用ボイスなどがダウンロードできます。

ライアーソフトファンクラブ会報
『月刊うそ。』第４１号
年４回季刊発行　2012年5月20日発行

発行：(株) ビジネスパートナー　ライアーソフト
編集：山原久稲　表紙レイアウト：しまさらゆめき
表紙・巻末漫画：Ｌｅｍ　印刷：(有) あかつき印刷

《お便りの宛先》
〒160-0022　東京都新宿区新宿1-25-3
エクセルコート新宿301
FAX.03-3355-6736
e-mail fc@liar.co.jp
※会員ページの投稿フォームもご利用ください。
各投稿には『ＦＣ投稿・●●係』とコーナー名を明記してください。
第42号の掲載〆切は７月２日(月)必着！

次号会報４２号は８月末刊行予定。新作情報続々。ライブ直前情報。そして夏の＊＊＊とはなんなのか？　え、あそこからあれが出るの？　早く情報言いたい～（RG）



ライアーソフトファンクラブ会報『月刊うそ。』
二〇一二年五月二〇日発行　年四回季刊発行
(株)ビジネスパートナー　ライアーソフト